
麻生リトル・ラグーマン



神奈川県川崎市
麻生ラグビースクール

全学年が準優勝だった県大会

統括副校長 重住 英彰

麻生RSは今年のミニラグビー県大会に3年生から6年生までの4学年5チーム(4年生のみ2チーム)が参戦し、猛暑の名残りの中、10月3日の開幕戦から紅葉が鮮やかになった11月23日の終幕戦までの8週間にわたり熱戦を繰り広げ、延べ19試合戦い12勝7敗の戦績でした。

序盤戦は各学年ともに順調に勝ち進みましたが、強豪との対戦が続く終盤は苦戦を強いられ、いずれの学年も後一步届かず優勝チームに惜敗してしまい、全ての学年が準優勝となりました。

そこで各試合の詳細は後段に譲るとして、学年毎の今年の印象をまとめます。

【3年生】初めての県大会に子供よりもコーチや保護者の方が大張り切り！初戦は横浜に危なげなく快勝したものの第二戦は打って変わって鎌倉に惜敗。しかし最終戦には一変して茅ヶ崎を一方的に退けるなど、「強さ」と「脆さ」が共存する未知の可能性を秘めた魅力的なチームです。

【4年生】果敢なタックルを起点としたスピードに満ちたオープン攻撃が自慢で大半の相手には大勝できるチームですが、ボールへの集散が速い田園にはてこずり、善戦するもトライに繋がらず大敗を喫した。また鎌倉の素早いサイド攻撃に守備の甘さを突かれるなど、優勝するための課題が明確になった大会でした。新たな目標に向かって日々逞しく試合毎に強くなっているチームです。

【5年生】初戦に強豪横須賀を接戦の末倒した勢いで続く相模原も連破し、絶好調のまま田園をも振り切り最終戦の横浜との全勝対決に駒を進めた。この決勝戦では前半こそは互角でしたが後半引き離され惜しくも全勝ならず。稲城の坂を走り切る体力と気力に裏付けられた爆発力に満ちたチームです。

【6年生】横浜だけが図抜けているが、他は実力伯仲のAブロックで横須賀、川崎には競い勝ったが大和に思わぬ惨敗。しかし大和が川崎に取りこぼしたので双方が準優勝となった。辛い夏合宿に続く厳しい練習に耐えた子供たちは大会で得た手応えに磨きをかけて2月のファイナルカップに臨みます。優しい気持ちの持ち主ながら、必ずここの一番で力を発揮する兄貴チームです。

次代の県大会を担う低学年によるミルキー大会の日程は雨に祟られましたが、延べ12試合

に参戦して11勝1敗の好成績でした。ヤング麻生の子供たちの逞しさに拍手喝采です。

幼稚園では、まず年中が横浜、鎌倉、横須賀を連破し、年長は大和キンダーカップこそ一回戦で横浜に敗退しましたが、交流試合では横浜に連勝です。

1年生は海老名、横浜との接戦を制し、2年生の4チームは横須賀、横浜、グリーンに全勝して常勝麻生の旋風を巻き起こしました。

これらの交流試合をとおして、低学年の子供たちがますますラグビー好きになってくれたら大成功です。またコーチも他スクールの状況を把握し、これからの指導に役立ててください。

皆さんのお陰で大きな怪我もなく、順調に試合をこなすことができました。またどの会場においても、ご家族の暖かい声援が子供たちを発奮させました。このように麻生の実力は優勝を狙える位置にはありますが、もっと切磋琢磨しなければ、この壁を乗り越えることは出来ません。そこで、コーチはもとより、ご父兄の皆さんには、来年もさらなるご支援をお願いします。

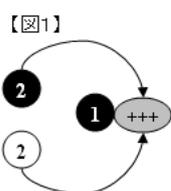
おかあさんのためのラグビー講座 ～いつもの攻撃が通用しないワケ～

大森 昇

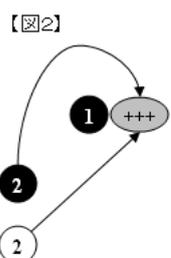
今年度の県大会は準優勝が多く、あと一步で優勝を逃した敗戦について「ちゃんとタックルをしているのに」「いつもどおりの攻撃が出来ているのに」「なんで負けたのかが解りません！」とご父兄から説明を求められるシーンが多くありました。

勝ち負けに拘らず、「安全に試合を楽しむこと」が小学生段階では重要なのですが、学年が進むにつれ「勝ちたい」という気持ちがラグビーを続けるモチベーションの大きなウェイトを占めているのも事実です。

安全に楽しんで勝つことのためにも技術、スキル、戦略が大切であることを痛感した県大会でしたが、何故そう感じたか？をちょっと「ご父兄にも判りやすいように」お話したいと思います。



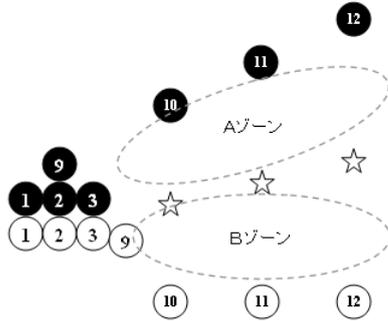
【図1】はボールを持った黒①に味方黒②と相手白②がフォローに向かう図です。黒②と白②は同着するので、ボールを奪う確率は五分五分ですね。



【図2】はボールを持った黒①が後方で倒され、前進できない状況の図です。白②は最短距離を前に出ただけなので、黒②よりも早くかつ力強い体勢で奪いに行くことが出来ます。白チームがボールを確保するのは確実です。

以上を踏まえて、実際の試合のシーンに当てはめてみましょう。

【図3】



【図3】は中学年7人制のスクラム時のポジションです。黒がアタック、白がディフェンスです。

黒⑩がボールを持って走り、白⑩がタックルするとき、どちらも同じスピードならば中間地点(☆印)でぶつかり、タックルが出来るはずですが、

黒⑪と白⑪、黒⑫と白⑫についても同じように☆でタックル出来るはずですね。上の【図1】とほぼ同じ状況となりどちらがボールを奪うかは判りません。

ここで白チームは相手より速く前に飛び出せば、図のAゾーンで相手を止めることが出来ます。先程の【図2】の状況となり、白チームがボールを奪う確率が高くなります。

逆に白チームの動きが鈍く、Bゾーンで「待ってタックル」をしていると【図2】と「逆の現象」となります。白チームはいくらキッチリ相手を倒しても、黒チームがボールを確保して攻撃を続け、これを繰り返しているうちにトライを奪われます。

麻生が負けた試合では、アタック時(麻生が黒のとき)ではAゾーンで止められ、攻撃がストップしています。ディフェンス時(白)ではBゾーンまで攻め込まれて相手の攻撃が連続する現象が起きています。

いつも通りのアタックをして、Bゾーンで捕まる分には次の攻撃に繋がるのですが、捕まる地点が少し下がるだけで攻撃が寸断されてしまうのです。「いつもの攻撃が通用しないワケ」について、お判り頂けたでしょうか？

AゾーンとBゾーンの距離はわずか6メートルです。まっすぐクラッシュするだけでは、☆で止まってしまいます。今シーズンのテーマ「抜けるクラッシュ」はBゾーンまで到達するために各学年のレベルに合わせて創意工夫をしましょうという意味合いです。

「Bゾーンまで攻め、Aゾーンで守る」ことを念頭にコーチ陣は日夜頭を悩ませています。(きっと)

「抜けるクラッシュ」の2年目に御期待下さい！！

中学生



岩永コーチ 矢部コーチ 種田コーチ 山田コーチ 近藤コーチ 小松コーチ
富田 棚橋 石田 嘉数 西村 島村 齊藤 森 荻原 射場 種田 町田 大野 酒井 中尾 計良コーチ
安井 木下(元) 渡辺 小坂コーチ
内田コーチ 須藤 横尾 猪腰 木下(雄) 白井 松村 柏木 清水 柴田

2010 年県大会を終え・・・

DAGS コーチ 小坂 頼史

新生ダックス(今年度から田園 RS のすべての学年、コーチがいなくなり グリーンと麻生 2 チーム合同となる初めての年)、初年度の成績は、A チームは 4 位 C チームは 5 位という結果となりました。これまで DAGS のコーチングスタッフは田園 RS 中心で構成されていました。本年度よりコーチングスタッフは、新しい顔ぶれとなり、練習内容、チーム編成も試行錯誤の連続でした。

今年は核となる選手の怪我による欠場が多く、それだけでなく選手層が薄く、一人でも欠場すれば戦力ダウンは必須の中で、いつも選手が怪我をし、ベストメンバーでそろった形の練習 試合をおこなうことが出来ませんでした。春先に 1 人、夏前に 1 人、夏合宿中に 1 人、またシーズン中には 2 名も怪我で欠場といった感じでそれもチームの中心となる選手がいつもどこか欠けていた状態でした。

予選リーグは何とか 2 位通過・・・しかし決勝リーグでは、横浜に完敗・・・3 位決定戦では相模原・川崎(今シーズン 3 戦 3 敗)に涙を飲み 4 位という結果になりました。

しかし、考えてみると今年の 3 年生は 1 年の時は、田園、麻生 グリーン 2 年からは麻生 グリーンの合同チームとなり落ち着かない環境化の中、チームメイト、練習の方針 やり方もころころ変わった中でよく頑張ったと思います。

ひとつ 今シーズンで気になったのは、タックルが出来なかった印象が強く残りました。ダックスの試合は、感動するものがあり、負けても勝っても魅了するものがあるラグビーを目指してきました。ひたむきさ 前向きさをチームに反映出来なかったのが、残念です。

優勝は出来ませんでしたが、今回、選抜メンバーに DAGS より 4 名送ることが出来てうれし

く思っています。中学生のうちには個人プレーをしっかりと磨き高校で組織プレーを学んで正月の花園のピッチに一人でも多くの DAGS の OB が立ってもらいたいと切に願っています。

これから新生ダックス、2 年目心新たにチャレンジ精神を忘れず、誰をも魅了し 感動を与えるような素晴らしいチームを作って行きたいと思っています。

3 年生の諸君、それから御父母の方、 本当にお疲れ様でした。今度は受験・・・頑張ってください。

県大会を終えて

DAGS コーチ 小松 正己

中学の県大会は2ブロック(4チームずつ)に分かれ、予選リーグを戦い上位2チームずつと下位2チームずつで順位決定戦を行ないます。DAGS-Cチーム(1年生)は予選リーグで1勝2敗(相模原/川崎連合に勝利、横須賀RSと横浜RSに敗戦)で1ブロックの3位となりました。順位決定戦では初戦に茅ヶ崎RS(2ブロック4位)と対戦し24対21で勝利し、最終戦では海老名/秦野連合(2ブロック3位)に29対10で勝利、中学初年度の戦績は県内で5位の結果となりました。

フルグラウンドでの試合、ポジションの変更が多い中でメンバーはよく戦ってくれました。来年に向け更なる強化に取り組み2年後には全勝優勝を目指して行きたいと思います。



最後の県大会

DAGS3 年 松村 凜太郎

僕達三年生にとっては当たり前のことですが最後の県大会でした。

小学校の頃からこの県大会に毎年出場しつづけていたので今年が最後といわれてもあまりピンときませんでした。

予選は順調に勝ち続けて決勝リーグに駒を進めました。ですが初戦で負けてしまい優勝の夢はあっけなく終わってしまいました。約 10 年間スクールでやってきたラグビーが一気に放出された感じがして涙が止まりませんでした。周りを見ると一緒に戦ってきた 2 年生も泣いていました。その姿を見て自分は仲間に恵まれていると思いました。優勝できなかったこの悔しさは 2 年生に課題として残し、自分も今後さらにうえを目指そうと自分の中で決心しました。がんばれ！！二年生諸君！！



『3年間』

3 年 森 凌馬

ラグビーと出会ってから6年経って、DAGS に入ってから3年経った今、改めて自分にとってラグビーがどんなものであったのか、また、これからどんなものでありつづけるのか、ということをととも考えるようになりました。

DAGS の皆で臨んだ最後の県大会では思うように自分の力が出せず、仲間には終始迷惑をかけっぱなしで、自分の3年間、6年間はこんなにも脆く薄っぺらいものなのかと、とても悔しく歯痒い気持ちでいっぱいでした。

東西対抗戦でも思うように結果が出せず、同じ様にもどかしい気持ちでいっぱいでした。

6年かけてこんなラグビーしか出来ないなら、高校でラグビーやっても仕方がないかなと一時思いもしましたが、今となって考えてみると、それは、今まで自分にラグビーを介して関わって下さったコーチや、こんな自分を見捨てずに一緒に頑張ってきてくれた仲間にとっても失礼であるということに気付きました。

高校ではこの県大会、対抗戦、3年間、6年間の悔しい思いを全てバネにして、頑張りたい、強くなりたいと切実に思いました。

県大会を終えて



中学3年生 木下 雄斗

今年の県大会は4位に終わった。県大会でどうしても勝てなかったのが川崎・相模原新人戦を合わせて3回試合して惜しくも負けてしまった。

なぜ負けたのかと今思い返してみる。

やはり『気持ち』で負けていたと思う。

接戦の試合では『気持ち』の差で勝負が変わってしまうことを改めて感じた。

これからもラグビーを継続していくので、この県大会で負けてしまったことをバネに高校・大学でもがんばっていきたい。

つらい最後のシーズン



中学3年 斉藤 翔

悪夢が起きたのはシーズン1週間前のガチンコ練習の時に起きました。タックルを膝に受けた瞬間でした。動かす度に痛みが走り、でも……まっいっかあ。ぐらいの気持ちでその日練習を終え家に帰ると痛みが激しくなり膝を見るとパンパンに腫れていました。父親に見てもらおうと「そんなの、冷やしとけば直る」の一言でした。冷たい親です。翌日、膝を見てみると足首まで温み出てきたので病院で検査をすると外側半月板損傷と診断され今シーズンは、むずかしいと医者から言われ自然と涙が……最悪 なんでこんなことに??とか、はじめは、そう思っていました。その後、自分がどう怪我と向き合うか、どう乗り切るかで怪我の治り方も全然ちがうですよ。前向きな時と後ろ向きな時とでは、脳が出すモノがちがうらしいです。

だから、前向きに。復帰したいのなら、怪我をしている間にいったい何をするかがその後自分に大きく影響するんだと思い、一歩引いた所から見てみないとわからないことがたくさんありました。自分がどうするかで、全てが変わるような気がします。いったん落ち込んだとしても、考えをきりかえて、今自分にできる事をしようと今、僕は高校でラグビーをやるために毎日ジムに通い体づくりをしています、中学3年の悔しさをわすれずに再挑戦します。

今年の県大会



2年 猪腰 風太

今年の県大会は悔しい結果で終わってしまいました。その中で一番反省する試合は 48 対 7 で負けた横浜戦です。

その日の大津グラウンドは前日からの雨が降り続き、まるで田んぼの中での試合でした。水溜まりのグラウンドは、スパイクは利かずボールは滑り手につきません。

僕達は声も出ず、ただ横浜の選手を見送るばかりの 40 分。正直僕は後半途中ボールを追うこと諦めてしまいました。気持ちのどこかで最悪のグラウンドコンディションを言い訳の材料にしていたのかもしれない。

同じ条件で戦う横浜は確実にトライを奪っていきました。完敗でした。ノーサイドとなり、並ぶ泥だらけの横浜の選手達は皆笑顔でした。3 年生に申し訳ないと思いました。悔し涙がでました。

この試合、歳の差も力の差も、そうないと思います。ただ勝とうという気持ちが大きく負けてしまったのではと思います。自分のこれからの課題が見えました。

絶対勝つ、なんとしてでもトライを取る。その気持ちが相手以上に強くないといけないと思います。来年は必ず横浜を倒します。



「県大会を終えて」

DAGS 2年生 横尾 昌哉

僕は今回の県大会はCチームでの試合出場でした。Cチームの試合では違う学年と力を合わせて頑張りました。そして今年はトライを決めてやると挑んだが、あと少しでトライできたのにノックオンしてしまいました。自分の中では、「もっと出来たかな……」

と思いました。僕に足りないものは、体力と強い当たりが不足していると今回の試合で痛感しました。これからは、日々、体力の強化を意識して最後の県大会はAチームで常に試合に出場できるよう頑張ります。

《2年の県大会を終えて》



中学2年 小野悠太

今回の県大会は、結局1度も出場せずに終わった。今の自分の実力の結果なので、素直に受け入れ、応援に力を入れた。外側から試合を見たことによって、今の自分の欠点やプレーの流れを把握する事が出来たのは、プラスだった。チームプレーの大切さも再確認出来たし……。

来年の県大会は、ふる出場は勿論の事、いいチーム作りをして、ダックスの歴史に残る結果を残してみたいと思っている。 《有言実行》あるのみ。

県大会



2年 千葉 航平

今年の県大会は、部活の都大会と重なってほとんど参加できませんでした。都大会が終了したあと、横浜RS戦に行き、リザーブに入りました。結果的には、負けてしまいましたがとても良い試合でした。しばらく、僕がDAGSの練習に参加できなかった間に三年生の先輩はもちろん、二年生の技術が向上していて、一人ひとりが果敢にプレーしていました。大きな横浜の選手にタックルに挑んでいく姿をみていて自分も頑張らないと、思いました。日程が終了した後の、スクール対抗の東西戦にも刺激を受けました。部活や、学校の試験、行事などと重なって思うように参加できないのですが、みんなに負けないように僕も頑張っていきたいです。

くやしい県大会



中1 嘉数 泰盛

僕は、DAGS初めての県大会で、全勝優勝することが出来なかったです。

全試合出場できたのに、僕は練習の成果が出せなかったです。

『あの時もっと声を出していればよかった』『あの時もっとタックルを頑張ればよかった』と、後悔することが沢山あった。試合は、全員が一丸となることが大事だと思っています。せっかく2年生の先輩たちとも、同じチームで勝負出来たのに、結果は5位でくやしい県大会で終わりました。

コーチからの『来年に向けて課題山積み』の言葉を、これからの練習で頑張っていきたいと思っています。

県大会



1年 安井 誠

中学に入って初めての県大会に行き、小学生の時とは違う空気を感じました。グラウンドは広くなって、体力がいるなと思ったけど、グリーンメンバーと一緒にやるのでとてもワクワクしていました。

1試合目の相手は横浜でボールのパス回しが上手な相手で声が大きかった。試合が始まってちょっとすると沢山反則をしてしまい、前半で沢山トライをとられてしまった。後半は前半よりも攻撃できたけれど、追いつけなくて負けてしまった。

3試合目は相模原との試合で始めから終わりまでいい調子で勝てました。

4試合目は茅ヶ崎でした。フォワードとバックスのバランスが良いチームで前後半でとても接戦だったけど、勝てて良かったです。

最後の試合は海老名と秦野の合同チームで、スピードがあって前半は少しおされぎみだったけど、トライもとれたので良かったです。

これからはタックルを怖がらずにいけたらいいと思うので、タックルを頑張ることができるようにしていきたいです。



「自覚」DAGS 1年

中学1年 富田 嶺央

今年も県大会の季節がやって来た。ただ、今回はいつもと違う。人数が増え、コートも広くなり、そして、新しい仲間が増え、DAGSのメンバーとして県大会に出場する。

しかし、今年の県大会はとても悔しい県大会になった。それは、前半しか試合に出れなかったからだ。自分の中では、努力したつもりだったが、努力が足りなかった。

これからは、もっと努力をしていきたい。



題名「県大会」

一年・棚橋 耕太郎

今回僕は、県大会で目標を作り挑みました。それはタックルです。僕は今まで試合に目標を持たずにプレーしていたので、タックルがちゃんと出来るように頑張りました。その結果、あまり強く相手を倒すようなタックルは出来ませんでした。小学生の時に比べると、どのチームも一段と強くなっていました。タックルやパスなど...全てが前より強く変わってきた気がしました。今回の大会では思うように結果が出せませんでした。これからの練習で強いタックルが出来るように頑張っていこうと思います。



「県大会でできなかった事」

中学1年生 木下 元太

僕は県大会で、スタンドを任せられました。

そこでは沢山の反省点がありますが、結局はコミュニケーション不足が原因だと思いました。うまく呼んでやれなかったり、余っているのにブラインドに行ったりして、何回もトライを逃してしまいました。又センターとハーフの連携がうまくとれず、ノックオンやスローフォワード等をしてしまい、点に結びつかない事が多数ありました。

そう考えると、技術も大事ですが、まずは声を出して、「あ、うん」の呼吸をみんなで練習する事が大切だと痛感した県大会でした。

県大会



1年 牧野 千太郎

今年は学校の部活と重なることがあり、練習になかなか参加できず、合宿も不参加だった

けれど、県大会には2試合でることができた。中学になって、部活ではポジションがフォワード変わったが、DAGSでもフォワードで出場できてとても良い経験になったと思う。ただ試合では、普段一緒にプレイしている学校のクラブの仲間と戦わなくてはならなかったのがとても嫌だった。

来年もDAGSの試合に出たいので、なるべく練習に参加したいと思う。

来年度にバトンをつないで！

中学3年生 木下雄斗の父・木下 豊三

DAGSの最終成績は2勝3敗で4位とはなりましたが、子供たちには素晴らしい経験になったと思います。先発に2年生が数多くいた若いチームとして戦った中での成績としては胸を張っていいとも思います。優勝した横浜とは差がありましたが、横須賀や川崎・相模原との差はほとんど無かったとも思いました。

それだけに来年に今年の経験を活かしてほしいものです。

さらに今年は松村君と雄斗が県選抜に選ばれることができました。この点でも2年生・1年生には後に続いてほしい、頑張っこのバトンもつないでくれることを願います。

最後に小坂コーチをはじめ、DAGS関係各位に日ごろのご指導を感謝させていただきます、ありがとうございました。

「最後の県大会を終えて」

DAGS3年 松村 凜太郎 母 松村 菜穂子

3年生のみなさん、お疲れさまでした。

2年生のみなさん、人数が少ない3年生を助けてくれてありがとうございました。

1年生のみなさん、いろんな面で試合をサポートしてくれてありがとうございました。

3年生は優勝というかたちで締めくくれなかったことは残念だと思いますが、自分に何が足りなかったのか？自分が何を得たのか？考えることができたのではないのでしょうか。

何より、1年生の時からチームのいろんな事情を乗り越え、最後にはDAGSという素晴らしいチームができあがり、一つのチームになれた達成感を味わえたことだと思います。

見ている方も、試合ごとに成長していく姿に感動をもらいました。ありがとう！

コーチのみなさま、熱心なご指導ありがとうございました。子ども以上に真剣なご指導に「コーチのためにも何とか優勝を！」と願っていましたが、親としては申し訳なく思います。

何より、「最後に優勝の美酒に酔いしれる」という長年の母の夢がお預けになってしまったのが一番の心残りです。

いつか何かの機会にその場面が訪れることを願ってやみません。よろしく！

県大会

2年 千葉 航平母

2年生になって、普段の DAGS の練習にも、なかなか参加できずにいたところ、学校の講習と重なって(成績がよければ受けなくて良い講習だったのに)合宿にもいけずに突入した県大会。さすがに、気後れして行き渋ってしまうかなとも思いましたが、日程が合って参加したときには、大いに刺激を受けて帰ってきました。息子が参加したときに、変わらずに、声をかけてくださった仲間や、コーチの方々には感謝いたします。

県大会打上(2010年11月20日)



6年生



曾我鷹平 三沢一海(バイス) 古野裕理 大森鐵乃祐 室井虹翔 岩野将大
赤池勇大 梅津誉 西野稜祐 東野遼太郎 田口吉兵(キャプテン) 野川亮 小山田弦

県大会を終えて

6年チーフコーチ 牛山 健太郎

小学部最後の県大会は2勝2敗、準優勝(大和RSと同率)で幕を閉じました。

第一試合 横須賀 A ○ 49-26

第二試合 横浜 A ● 7-54

第三試合 川崎 A ○ 21-12

第四試合 大和 ● 14-54

「みんな頑張った。妥当な結果じゃないか」「大和戦は勝てたぞ、単独2位を逃したんだ」

「いや、横浜にだってやりようで勝てたんじゃないか」「あの時あのタイミングでこうしていたら」。

いろいろな想いが未だ交錯する。大和戦の悔しさの記憶は強く残りそうだ。

はたして激しい川崎戦をものにして大和戦を軽視したのか。油断？ 迂闊？ (そんなつもりはな

かったけどね)

大和の川崎、横須賀との接戦の結果を見て、自分達のラグビーさえ出来れば絶対に勝ると信じていた。

それなのに、力を出し切る術を、流れを変える手立てを、ペナルティを取られない指示を、不甲斐ないチーフは何もしてあげられなくて最低だった。

組み合わせを聞いて4敗を覚悟したことを思い出しても。ただ悔しい。

麻生らしさ=気持ちで勝つ(負けない)、大和戦はこの点で大和が勝っていたことは否めない。

横須賀戦、川崎戦では麻生が気持ちで勝ることが出来ていたのに。

ピッチに出たらどんなゲームでもコンスタントに力を出し切ることの難しさを思い知らされた。

そして、逆転で勝利をもぎ取った2つのゲームの感動も消えない。

力が付いてきて、これからはより論理的に弱点の分析、強化と、強みを活かした戦術の徹底が必要だ。

一人一人の理解・意識のレベルを統一する。このチームはまだまだステップ・アップしている過程だ。

再戦したら違う結果になる可能性は、今年一年の成長を振り返ればきっと小さくない。

2月のファイナルカップは受験メンバーも加わって最後のゲームを楽しむことが出来る。

皆が揃って、澁刺としたプレーを観せてくれるのが本当に楽しみだ。

子供達はみな自信をもって前を向いて欲しい。みんながラグビーを続けてきたことはそのまま未来に繋がっている。

逆風下でも、相手がとてつもなく強くても、前に進むしかない。

ぶつかって倒して倒されたこと、机上では身につけられないこと。

思い切り悔しくて泣いた、嬉しくて笑った。一生懸命。それが大事だってこと。

今日は勝った、今日は負けた、その繰り返し積み重ねが人生だってこと。

今はいろいろ分かんなくたっていいんだ。振り返るのはもともとずっと先でいい。

ただ前を向いてそのまま、澁刺と、走り続けて欲しいと思う。

ご父兄各位、

お疲れ様でした。一区切りつきましたが、2月のファイナルカップでまた盛り上がりたと思います。

(卒業後は DAGS もあります)

引き続き宜しくお願いします。

頑張れ六年生

6年サブチーフコーチ 清水 賢一

小学生最終学年での県大会がノーサイドの笛とともに終わってしまった。
今年は四戦、戦い成績は二勝二敗の五分の成績で三校による準優勝でしたが子供達はどうか感じたのでしょうか。

総括するコーチとしては、13名の六年生らしい成績だったように感じます、負けた2試合はこの六年生の負けるパターンの試合であり緊張と気合いが空回りして自分達のゲーム運びに持っていけないまま時間とトライだけが過ぎていった試合でした。その試合前の緊張と上げる気持ちをコントロールできなかった自分を含めコーチ達の責任でもあります。

勝った2試合に関しては試合前からの調整もいい感じでアップが出来て試合に入る事ができていたように思います。そうなるとこの六年生の勝ちパターンで2試合とも先制トライを取られたとはいえ必ず勝てる気がしました。特に川崎戦は昨年の県大会でのリベンジでもあり、子ども達の今年の目標でもあった為、後半に入ってから気合いと集中力には感動しました。「ありがとう」

しかし、負けた試合は単なる負けではなく幸い今年の六年生は二月にフィナルカップという六年生だけの大会がありますので、もう一度細かい修正と気持ちをコントロールして二月の大会に向けて練習をして良いゲームをして最後は勝ってみんなで笑おう。

今年も御父母の皆様にはたくさんの声援と励ましのことばをいただきありがとうございます。もう一度、子供達・コーチ・御父母の皆様 全員で力を合わせてフィナルカップに向けて頑張っていきましょう。「練習するぞ！」

秋の県大会が終わっても、まだまだこれから！！

麻生 RS 6年コーチ 安井 章

とうとう、小学部最後の県大会が終わりましたね。結果は2勝2敗。この結果に皆さんは満足していますか？結果だけ見れば、やはり満足できませんよね。私自身もやはり満足はしていません。

ただ、ここでひとつ考えてください。自分自身、本当に全力で練習に取り組んできたか？また、試合も全力で相手に向かって行けたか？

“全力でラグビーに取り組んだ！！”というのであれば、今後の自信になるでしょう。逆に“全力で取り組めなかったな”と思うのであれば、今後の練習で、試合で、全力で取り組んでください。

努力は決して裏切りません。小学部終了までは短期間です。ファイナルカップもあります。グラウンドでは、全力で頑張りましょう！！私も全力でサポートします。

ご父兄の皆さまへ

子供たちへのサポート、本当に有難う御座います。受験や学校行事、何かと忙しい六年生で

すが、3月まで小学部のラグビーは続きます。引き続き子供たちへの熱い応援とサポートをよろしくお願ひ致します。

2010年県大会を振り返って

6年コーチ 教村

子供達を振り帰ると本当に自信が無い学年だった。

しかし、君達の成長は素晴らしい

今年の県大会 2敗しちやっただけど合格点だよ！

勝ちたい気持ちが君達を大きくしたんだね

これからの長い人生で大きな思い出になり自信に繋がる事は間違い無い

合宿での厳しい練習に耐えた根性 芽生えた仲間意識こんな素晴らしい選手で県大会に参加できた事は私にとって大きな誇りです。

今シーズンの一番素晴らしかった試合は、川崎戦だったね！

君達の勝つんだ！！の気持ちが最高に盛り上がった素晴らしい試合だった！！

惜しくも優勝は逃したが、

大きな勝利を勝ち取った君達は素晴らしい子供達です

一緒にラグビーが出来る時間は少なくなりましたが、精一杯楽しみましょう

最後の県大会

6年コーチ 矢野 彰一

「えーっ、うそー！」麻生の応援をしていた人たちから、不満の声が起きた。ラグビーの試合観戦マナーとして、一番恥ずかしい事とされるレフェリーへの不満。それが起きるほど、麻生は反則を繰り返していた。

6年生の県大会の最終戦。この大和戦に勝てば、他チームの結果次第では、優勝の可能性もある試合だった。しかし、立ち上がりから押し込まれ、立て直そうと焦れば焦るほど反則を繰り返し、流れをつかめなかった。後半何とか意地を見せたものの、そのまま敗れてしまった。みんなが、くやしかった。結果は、2勝2敗で準優勝。

でも、子供たち、胸を張ろう。君たちは結果に満足していないかもしれないが、充分成長の

跡を見せてくれたと思う。緒戦の横須賀戦では、緊張の中、相手に先制されても、落ち着いてよく逆転勝利をもぎ取った。川崎戦では、今までいつも勝てなかった相手にも堂々と逆転で勝った。麻生らしさを出した、すばらしい試合だった。

私自身は、県大会までの練習とかを振り返って、君たちと一緒にラグビーができて、ほんとうに幸せだったなあと思えたよ。子供たち、どうもありがとう。

「勝者の条件」

6年コーチ 清水翔太

勝負の世界には、後悔も情けも同情もない。あるのは結果、それしかない。どんな事情があったとしても、2勝2敗の準優勝という成績は変わらないのだ。ただ、個人的なことを言わせてもらえば、少なくともあと1勝はできたのではないかと考えている。なぜその1勝を手にすることができなかったのだろうか。

これは私の持論であるが、人は自分自身こそ常に最大の敵なのだと思う。それはグラウンドのなかでも全く同じであり、些細な油断や慢心が重大な結果を招く。まさにこれこそ、6年生全体に足りなかった部分なのではないか。負けた試合はいずれも前の試合で素晴らしい試合をした後である。もしかすると、君たちやコーチの心の何処かに満足してしまった部分があり、それが結果となって表れてしまったのかもしれない。

勝ちは「終わり」でなく、そこには絶えず次の勝負の「始まり」が存在する。勝って驕らず、負けて腐らず。ただひたむきに強さを求める心こそ「勝者の条件」であり、その気持ちを私は尊いと思う。

県大会は終わった。しかし、それは新たなステージへの始まりに過ぎない。お互いがより高みを目指せるよう、また一緒に練習していこう。

県大会を終えて

6年コーチ 伊藤信一

10月3日 大津Gでの横須賀戦に始まり、あっという間に終わってしまった県大会でした。初戦に勝利した時点では、次の横浜戦にも勝って、そのまま勢いに乗って全勝優勝！！牛山コーチ胴上げ！！打ち上げではビール掛け！！なんてひとり浮かれてもいましたが、それほど甘くはなかったですね。終わってみれば、勝ち、負け、勝ち、負けの2勝2敗、勝ち星を分け合っというと結果、草食系メンバーの多い君たちらしいと言え、君たちらしい結果だったのかな。

でも君たちは、全国でレベルの高い、神奈川県6年生Aブロックでの“準優勝”なのですから誇りに思ってください。また今年は特に、記録的な猛暑のなかでの練習、合宿、ここまでやってこられた事は今後何に関しても自信に成ると思います。小学生での活動も残り少なくなってきました。目一杯ラグビーを楽しみましょう。

県大会を振り返って

6年キャプテン 田口吉兵

小学校最後の県大会は2勝2敗とくやしい思いで終わった。
勝った横須賀戦や川崎戦、そして負けてしまったけど横浜戦は気合が入っていたと思うが最後の大和戦は相手の勢いに押され、思うような戦いができずに終わってしまった。

ぼくはこの6年間で仲間の大切さや協力することの大切さを学んだ。
中学部のDAGSに入ってチームメイトが変わっても、一緒に戦ってきた仲間を忘れず一步一步進んでいきたいと思います。

「小学部最後の県大会」

6年 野川亮

ぼくは、今年の県大会はこれまでより気合を入れて、臨みました。目標もハードルを上げ全勝優勝にしました。グループを聞いた時は、とてもうれしかったです。なぜなら、川崎Aとやれると思ったからです。しかし、横須賀Aに勝ったことで、いい気になり、横浜Aに敗北。この試合で、どれだけ気持ちが勝敗を左右するかを実感しました。川崎Aには、21-12と僅差ながら、勝利することが出来、良かったです。大和戦では、気持ちが全く入らず、とても悔しい思いをしました。2月の大会では、勝ち進んで、横浜A、大和に絶対勝ちたいと思います。

苦労を乗り越えて

六年 赤池 勇大

僕は県大会前に右手首の骨折をしてしまいました。全治一ヶ月半。最初は 皆の練習をただ見ているだけでした。肘まであったギブスが短くなってから ランニングや対人パスなどは出来るようになりました。

県大会の初戦 その時はギブスが まだ外れていなかったの で 試合には出られませんでした。自分も みんなの練習や試合を見ていて 試合に出ているような気持ちになりました。その試合終了後 思わず泣いてしまいました。それは勝った喜びと 自分が試合に出られなかった悔しさが混ざった涙でした。

第二戦は やっと試合に出られるようになりました。この横浜戦を楽しみにしていましたが結果は負け。自分は練習を暫くやっていなかったの で 力不足でした。どのタイミングでパスをすればいいのかとか 勘が戻っていませんでした。

第三戦は 去年の宿敵 川崎戦。練習中の皆の気持ちが 去年の悔しさを思い出して 皆の体を後押ししてくれたようでした。かなりいい試合で 勝てました。試合が終わった時 今まで練習してきたのが無駄じゃないかと 改めて感じました。

第四戦の大和戦。練習はいつもと同じような気持ちで取り組んだけれど みんな川崎戦で燃え尽きたのか いつもの試合の展開はできませんでした。試合が終わって帰りの車の中で

も後悔はしてなかったけど 今になって もっとこうやっていけば・・・という思いが出てきます。

二月の六年交流大会では 大和と横浜に勝ち 今度こそ 全勝優勝したいです。

「頑張りました！」

六年 古野 裕理

県大会、期待した結果は残せなかったけど、できるだけの努力はしたと思うので悔いはありません。まだ終わったわけではないので、やる事が終わったらまた練習に合流して仲間やコーチ達と一緒にがんばります。

2勝2敗の県大会

6年 西野稜祐

僕はこの県大会、準優勝という成績に満足している。

横浜と大和には完敗したが、川崎に勝てたのは一番うれしいことだった。川崎との試合では負傷者を出しながらも皆で力を合わせたから勝てたと思う。しかし、最後の大和にはゆだんしてしまったせいで攻め続けられて負けてしまった。

横浜とは4年生のときにBチームと対戦したが、1トライしか取れずに完敗した。今回も1トライしかとれず、力の差は変わっていなかったことが残念でした。

僕はこのチームで6年生まで続けることができうれしいです。仲がよく、はげましあいながら共に戦えた仲間に出会えたことが良かったと思います。

最終戦の後の打ち上げでは、「残念会」になってしまいましたが、校長に「当たり」のことでほめられたのがうれしかった。中学に行ってもラグビーを続けていきたいです。

コーチ！熱い指導やたくさんのアドバイスありがとうございました。

「最後の県大会」

6年生 岩野将大

僕は6年生の県大会で、「くつじょく川崎にリベンジ」と「全勝優勝」を目標にしていました。

川崎には勝利したけど、全勝優勝出来ませんでした。悔しいです、どうしてみんなで一生懸命、練習したのに…と思いました。

だけど、打ち上げの時にコーチが「君たちは神奈川県のアブロックで準優勝だ！胸を張って自信をもて」と言ってくれました。僕はまだ悔しいけど、目標の一つは果たす事が出来たのだから胸を張って自信を持つ、

そしてこれからまたいろいろな事にチャレンジをしていきたいと思っています。

県大会を終えて

6年 室井 虹翔

今年は、小学校最後の県大会でした。

2勝2敗でしたが、ぼくは、この結果に悔しいが満足しています。この結果は、チーム全員ががんばったあかしだとぼくは思います。

1戦目の横須賀戦では、みんなががんばってくれて圧勝できました。

2戦目横浜戦では、調子も良く、ぼくは、後半に出て1本トライを決めました。

自分自身、そこそこがんばれたんじゃないかなと思いました。

3戦目川崎戦は、去年、おととの県大会・練習試合などで、川崎に負けてしまい今年こそは、リベンジしてやるという気持ちで挑んだ。その結果、みんなで勝利することが出ました。

4戦目大和戦、川崎にリベンジして勝ち、少しかれすぎていてきずくと何本かとられてしまい、きずいて追上げるも間に合わず根性で2本トライをバックスでとってねばるも...やられてしまいました。

この県大会は負けた試合も内容は、得点差をそんなに感じない試合ばかりだった。

これから卒業までの数ヶ月しかないので、

再度、リベンジしてがんばりたいです。

最後の県大会

6年 大森 鐵乃祐

今年の県大会は小学生最後の大会なので、しっかり練習して勝つ気でいた。

初戦の横須賀戦は、4年生の時にわずかな点差で負けた相手だったので、リベンジしようと思っていた。試合が始まったのにもかかわらず、ぼくは勝てるかどうか不安だった。横須賀の攻撃はキャプテンの大きい人しか強くなく、だんだん勝てそうな気がしてきた。だが、キャプテンが強すぎて、キャプテンにだけ、けっこう点をとられた。負けじとぼく達は必死になって得点を重ね、見事勝利した。

次の相手は、強すぎる横浜との試合だった。試合が始まると横浜は思った以上に強かった。相手は声が出ていなかったのに、ぼくらは負けてしまった。くやしさがこみ上げてきた。リベンジしてやる、と思った。

三戦目の相手は川崎だった。去年なぜか負けてしまった相手だ。これはなにがなんでも勝たなければ、と思った。試合が始まる前にぼくたちは厳しい練習をした。そしてかなり気持ちが上がり、絶対に勝てる、と思いながら試合が始まった。川崎はかなり強く、ぼくはタックルするとそのままゴールポストに当たり肩を強打した。けれどもそこでお父さんの厳しい声が耳の中に入ってきたのでムクっと立ち上がり、また試合を続けた。みんな本気で戦った試合だったので勝つことができた。この勝利は今まででかなりうれしかった。

そしていよいよ最後の県大会の相手は大和だ。この前の川崎の試合の前に大和は試合をしており、ぼくはその試合を見ながら、これは楽勝だ、と思っていた。けれど、この日の大和を

見るとかなり気持ちが入っていた。試合が始まった。大和はとてもうるさいくらい声を出し、タックルなどをしてきた。ぼくらは前半からかなり大和にやられた。後半の最後に、りょうが最後の力をふりしぼりトライを決めてくれて試合は終わった。

結局は負けてしまった県大会だったが、とてもよくがんばったと思います。

県大会をおえて...

6年 東野遼太郎

県大会で目標にしていたことは、自分のポジションがフルバックなので、大きな声を出し、みんなに指示すること、けがをしないこと、泣いたりしないことでした。

1試合目の相手は、横須賀でした。自分が目標にしていたことを守れるか心配でしたが、けがをしないで泣かなくてよかったです。

試合の結果は勝ちました。

2試合目の相手は横浜で、声をあまり出せなくて、負けでした。

3試合目は、ライバル川崎が相手でした。

結果は勝ちました。

目標に向かってがんばっていましたが、ぼくは後半に味方同士でぶつかってしまい、まゆ毛の上がきれて、次の週の試合も出られなくなってしまいました。しかし、最終戦の大和戦で、ぼくの目標で、できることができました。

それは、大きな声を出すことです。

結果は負けたけれど、自分では目標に達したと思うので、よかったです。

「県大会を終わって」

6年 小山田弦

まい年優勝ができないでいるこのチーム。自分はあまりやくにたたないのか、たっているのか暗中模索だった。だから、必死になって役にたつように、自分の得意なボールをぬすむことと、はげますことをがんばった。暗いトンネルに光がさしかかったようにうちのチームは6年になって1試合ごとに強くなった。がんばって、川崎や横須賀に勝つことができた。が、横浜や大和にまけてしまった。大津での試合では、最初に一本取られたからあわててしまった。まわりの仲間もその1本のトライで身がひきしまりそのあとに麻生が逆転することができた。試合が終わるのをいつかいつか考えながらがんばって相手のこうげきから守りきった。横浜との試合は、キックでボックスをねらいフォワードのくる前にオーバーされて麻生を押ししていた。だが1トライしてけいせい逆転になるかと思ったがそのまま下をむいてプレイしていた。だからあの時もう少し顔をあげてがんばっていればトライして逆転できたのかもしれないと思った。今まで川崎戦では、一人に全部ぬかれてしまいやられてきたから、この大会でみんなの気合は、試合が始まるまえから高まっていた。始まると全員のコンディションが良かったらしく完ぺきなように試合をすることができた。やっと川崎戦のリベンジをはたすことができた。大和戦

は、試合が始まるまでは他のチームに1勝しかできないチームに負けるはずがないと思って
いた。試合が始まると大和の強さをしった。フォワードのジャッカルが早くオーバーも早かった。
かんたんに試合に負けてくやしなみだをのんだ。結果は2勝2敗で準優勝だった。ダックスで
もラグビーをつづけてダックスのチームで優勝したいです。

「2月にまた会おうね！」

6年生 曾我鷹平

県大会は、みんなで力をあわせて、全力をつくしてがんばれたことが、よかったと思います。
結果は2位だったけど、伸び率は負けていないと思います。

自分としては、大和との試合では、練習で倒れたときに横にならずに、体を縦にしてボール
を味方に出すように、コーチに教えていただいたことを、試合本番で何度か心がけてみたら、
やっと縦になることができ、ボールがつながりました。とても嬉しかったし、自信がつかまし
た。

しばらく休むことになりましたが、2月にまた、みんなとグラウンドに立てることを楽しみにしてい
ます。

進化した6年

6年生 田口吉兵母 田口富美

思い起こせば・・・

ボールを持って走っている相手に手を伸ばして追いかける・・・

タックルできず何トライされたかも数えられないほど負け試合ばかりのチームでした。

どう教えていけばよいのか？・・・とコーチの方々をさぞかし悩ませたことでしょう。

この6年最後の県大会で競合チームとも競い合う程までに進化を遂げた子供達。

これまで厳しく温かく見捨てないでご指導下さったコーチの方々に深く深く感謝します。

特にリベンジできた川崎戦は、今までの集大成とも言える素晴らしい試合でした。

終始、集中力が途切れず、前へ前へとチームが一丸となり突き進んでいく子供たちの姿に感
動でした。

2月のファイナルカップでの更なる飛躍を楽しみにしています。

「成長した子ども達」

6年 野川亮の母 文緒

3年生から県大会が始まり、この学年はなかなか勝つ喜びを味わうことが出来ませんでした。
「今年こそ全勝優勝！」を目標に練習に励んできました。夏合宿を経て、子ども達はラグビー
の技術はもちろん、チームとして1つにまとまり、大変成長しました。

県大会が始まり、初戦の横須賀戦。接戦ながら、自分達のラグビーが出来て勝利。昨年負
けた川崎AIにもリベンジを果たし2勝をあげました。最後の大和戦、気持ちで相手に負けてい

たことが本当に残念でなりません。しかし、この2勝は非常に価値ある勝利で、ここまで育てて下さったコーチの皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。小学部も残りわずかとなりましたが、2月の大会で精一杯のプレーが出来る様、更なるご指導を宜しくお願い致します。

さらなる進化を

6年 曾我鷹平 父 曾我浩

6年生のみなさんは、強豪ひしめくAブロックで、2勝して準優勝、よくがんばりました。おめでとう。

みんなが強くなったのは、点取り屋のスーパースターがいたからではなく、ひとりひとりが、がんばって、成長して、みんなでとったトライで、チームが勝つ喜びを味わうようになったんだよね。

でも、もういちど最後の試合のことを考えてみてください。

何本も続けざまにとられてしまったとき、誰かのミスがきっかけとなったとき、何を考え、どんなことをしていましたか？

ラグビーだけでなく、何事もうまくいっているときは、みんなハッピーです。

本当に、苦しいとき、負けそうなときに、「仲間を助けよう」、「仲間を励まそう」という気持ちになって、声をかけられたでしょうか？

県大会は、終わりました。年が明ければ、6年コーチも少なくなるし、2月まではグラウンドに全員集まる機会も少ないかもしれません。

新しい年がスタートしますが、グラウンドにいる子も、受験をがんばる子も、2月に集まったら、もういちど川崎戦のように充実した試合ができるように、がんばってください。

まだまだ、進化する可能性をあきらめないで、最後まで力を出し切ろう！！

6年コーチのみなさま。

「がんばれベアーズ」か、チャーリブラウン率いる「ピーナッツ」のような弱小チームを、ここまで大きく心身ともに成長させていただきました。

「ベアーズ」は、天才ピッチャーと不良少年スラッガーの加入で準優勝しましたが、今年の6年は、コーチが、子供たち全員をヒーローに育ててくれました。

本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

ひとりじゃない

六年 赤池勇大 母 操

息子は県大会直前の九月半ば、アタックディフェンス最中に全治一ヶ月半の右手首骨折。一時は県大会出場が危ぶまれました。でも右腕を吊りながらも 仲間の一員として県大会を戦える日が来ることを信じて 皆のそばで声を出したり 一人グラウンドを何周も走ったり 自

分なりの努力を続けました。神様はそんな息子をちゃんと見てくださっていたのか 我が家にとっては好都合のスケジュールとなり 日程が十一月に集中していたため 第二試合目から出場が可能になったのでした。(子どもの治り早っ)

第一戦の横須賀戦。麻生らしいプレイで勝利。フォワード陣のトライやりょうすけの毎回ノーマスのゴールキックに狂喜乱舞。いつもありがと～

第二戦の横浜。善戦及ばず敗戦。

第三戦の川崎戦では 仲間のゲガというアクシデントにも見舞われましたが 息をのむような素晴らしい戦いを見せてくれ 試合終了後 我が息子はうれし泣き。去年のリベンジおめでとう！！

第四戦 十三人全員そろって戦えました。最後の最後に りょうの気迫のトライ。もやもやとした気分をスカッとさせてくれました。(ありがと～)低学年の時は ポーカーフェイスで 負けて悔しいのか どうなのか 今ひとつつかめないような所があった彼らも さすがに今回は悔し泣き。牛山コーチも向こうを向いて肩を震わせていらっやいました。

みんなが大好きなラグビーは 足が速い子も遅い子も 背が高い子も低い子も それぞれの特徴に合ったポジションを見つけることができるという素晴らしい競技であると同時に、そのデコボコを補い合っ 信頼というボールを繋いでトライを生み出す そういうスポーツだと私は理解しています。勝敗の前に そんな大切な事に気付く 考える機会を与えてくれるラグビーに 大人になる前に 出会えたなんて 本当にLuckyな子どもたちです。

第四試合終了後 帰宅する車の中で 息子が鼻歌を歌っていました。

「ジュピター」平原綾香

Every day I listen to my heart

ひとりじゃない

深い胸の奥で つながってる

果てしない時を越えて 輝く星が

出会えた奇跡 教えてくれる

スクール入会当初は 赤紺ジャージを身につけて もう出かけるだけという状態なのに 玄関先で「行きたくない」と泣いてお休みすることもありました。それが今では 日曜日の午前中は 仲間たちに会える 貴重で楽しみな時間となり まさに「ひとりじゃない」を実感している息子。

ただただ直向きに 黙々と練習をし 試合に四分の一しか出場できなくても それをどうこういうわけでもなく いじけることもなく ましてや仲間のことを悪く言う事も一切なく いつも仲間のいいところを見つめ認めてきた 我が息子。それが彼のプライドだったのだなと今になって気づきました。縁あって出会えた仲間たちとの時間は 悲しいかな有限。自分の弱さから目をそらさず 残りの時間を有意義に過ごそうね！！

最後になりましたが 弱小チームをここまで根気よくご指導していただきました 三浦校長をはじめ関係者すべての方々 牛山チーフコーチ率いる六年コーチ陣と前佐藤チーフコーチ

ご父兄の皆様へ心から感謝申し上げます。ありがとうございました。そして卒業までどうぞよろしくお願いいたします。

****息子が骨折をした日。息子の腕を支えながら荷物を持っていた私。それに気づいてサッと私の荷物を持ち駐車場まで同伴して下さったばかりかドアの開閉や息子が座るシートを倒して下さったりと様々なご配慮をして下さったコーチがいらっしゃいます。大変失礼ながらお名前を存じあげません。不安な気持ちでいっぱいだった私たちでしたが愛と勇気を頂きました。(命名 麻生のアンパンマン (笑))

この場をお借りして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

本当にありがとうございました。*****

「お疲れ様でした！」

六年 古野裕理の母 古野 千津子

もしかしていけるかも、と思い始めていただけに残念でした。横須賀戦は見る事ができなかったのですが、川崎戦ではいいプレーをたくさん見せてくれて応援も楽しかったです。今年の六年生は「これでいいのだ！」かもしれないですね。

裕理はあまりチームのお役に立てなくて親としては申し訳ない気持ちもありますが、本人はあまり自覚もないようでチームメイトやコーチとのやり取りを楽しんでいるようです。

しばらく練習はお休みしますが、また二月から参加させていただきます。

また鍛え直して下さい。

最後の県大会お疲れ様！

6年 西野稜祐の父 西野裕三郎

6年生の皆さん、コーチの皆様、県大会お疲れ様でした。

残念ながら優勝はできませんでしたが、準優勝という結果は立派だと思います。川崎とは練習試合を含め1度も勝っていませんでしたが、負傷者を出しながらも逆転勝ちを収め有終の美を飾りましたね。思い出せば、このチームは幼稚園の頃から勝つことよりも負けることが多く、目の前に転がっているボールも拾わず相手に取られてしまうような、いい意味で？おとりしたチームで、今後はどうなるんだろうかと思っておりました。そのようなチームをコーチのみなさんが粘り強く指導していただいたおかげですばらしいチームに仕上がったと思います。本当にありがとうございました。

今後は、この経験を活かしてさらに成長して行ってくれることを期待しています！

最後の県大会

6年 西野稜祐の母 西野みのり

早いもので、このチームで戦える最後の県大会終了してしまいました。

今年の特戦ブロックが決まったときは、川崎 RS へのリベンジ、強豪横浜 RS との試合をどう戦うかがカギとっていました。練習も日に日に気合いが入り、良いチームに仕上がってきました。もしかすると、あっさり優勝しちゃうかも！なんて淡い期待を胸にいざ出陣。

1戦目の横須賀 RS との試合は自分達のラグビーができ、簡単には勝たせてもらえませんが、まず1勝。相変わらず、この子達が勝つ試合はハラハラさせてくれます。

2戦目の横浜 RS との試合は、力の差を感じましたが、最後まで諦めることなく戦ってくれました。まだまだ、これから！！仕切り直し。

3戦目の川崎 RS との試合はリベンジがかかっている一段と気合を感じ、逆転勝利を見せられました。試合後ガッツポーズをする子供達の嬉しそうな笑顔を見たら涙してしまいました。

4戦目の大和 RS との試合。予想外の結果でした。夢であってほしい。こんなはずでは一。

結果は2勝2敗。息子は優勝を目標に頑張ってきたのでさぞかし悔いが残っているだろうと思いましたが、「今の自分達で、2勝2敗の成績は上出来。もっと強くなれるよう頑張る！」と、私よりも先に気持ちの切り替えをしていたようでした。

これまで勝つ経験が少なかったチームをここまで成長させてくださった校長はじめコーチの皆様、本当にありがとうございました！また、息子と仲良くしてくれたチームのみんな、そして子供よりも熱い母達は私の宝物です。

小学部卒業まであと少しですが、今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

「ポケットに宝石」

6年生 曾我鷹平の母 曾我千文

県大会を応援していて、気づいたことがある。心を揺さぶる光景は、目の前で繰り広げられる現実であっても、まるで映画の一シーンのように胸に刻まれるものだ。

子どもたちがボールに食らいつく。向かう相手に体ごとぶつかる。ボールを出す視線の先に仲間がいる。走る、走る、走る。・・・瞬間、周囲の音が消え去り、目の前に繰り広げられる動きすべてが、スローモーションになる。一瞬の時間が、輝く宝石に変わる魔法のようだ。しかもこの宝石は、ポケットにつっこんだままの手で握れば、心が熱くなる。いつでもポケットから取り出して、眺めることもできる。あの子の、あの子の、あの子の、真剣な表情は、いつまでも色あせることはない。

13人全員で闘った仲間たち、そして、子どもたちを支えて下さった、すべてのみなさまに心から感謝申し上げます。経験という記憶の宝石が、いつもみなさんのポケットで輝いていますように。

5年生



越野良我 藤原卓也 佐々木陽平 山中康大 小作航平 白川幹斗 山本凌介 佐々木晃平 エラガデヴィッド 亀田幹太

五年生県大会によせて

五年 チーフコーチ 安井絹子

五年生は、今年相手チームに勝つことよりも「己に負けないで、走り勝つラグビー」を目指しました。そのために、猛暑の中、坂道ダッシュ 10 本の練習メニューを毎週こなしました。それを励行する過程においては「そこまで厳しくしなくてもいいのでは...」「吐くまでやるのはどうか...」など賛否両論ありました。

厳しい口調で子に接していく中では「やめたい...」「コーチの言い方が嫌だ...」など子として当然、モチベーションが下がる場面は沢山ありました。

アマチュアかつボランティア団体の中ではどこまでやるのか？どこまでやらせるのか？またやめたほうがいいのか否か？楽しいに甘んじるのか否か...本当に悩みました。

しかし子も仲間のコーチもご父兄もすべてを信じなければ何も始まらないと確信し、「コーチの厳しさ」も「コーチの課題提示は、必ず子はやりきることが出来る」ということも、両方信じることに決めました。

小さな伝達表現方法も工夫し、試行錯誤する中では、さわやかに自己主張する方法も私自身、学ばせていただきながら、三位一体で子を三勝に導くことができました。

吐くほどにがんばった苦しみは、競った場面で粘りをみせ、(田園に)勝ったのに二点差や試合内容が納得いかないと欲もみせ、県大会は一回りもふた回りも成長を残せるものとなりました。

好カード(横須賀、相模原 B、田園 A、横浜 B)を競って勝てた経験は大きく、「全勝優勝」の課題は敢えて？来年に残し、六年への挑戦に入ります。

非力な私を常に、後押ししてくれたのは、子供との確固たる信頼関係。インドネシアにいる目崎翼を含めた 12 人の子供たち、本当に本当にありがとう。

来年も切磋琢磨して頑張ろう！

追加記載として、北九州支部の赤池コーチ、仙台支部の岸川コーチ...ともに何回も県大会に、遠方から足を運んでくださり 本当にありがとうございました。重ねて感謝申し上げます。

五年生チーム 万歳！

地力

5年コーチ 赤池康彦

県大会、本当によく頑張りました。おめでとう。3勝一敗、立派な記録です。

横須賀、田園との2試合、接戦を競り勝ったのは”地力”がついてきた成果です。”地力”は

■坂道ダッシュ等の練習で走力、体力がアップした事→特に幹太や良我、デビッドがよく練習についてきました。

■FW、BK それぞれ自分の役割を理解し、トライを取るイメージができあがった事→セットプレーからの得点の機会が増え、自信につながっています。

■試合の流れを読んで、状況に応じたプレーができるようになった→特に視野の広いFB 凌介のFB起用が成功した

事が大きく、春以降の厳しい練習を経て成長した証です。そしてチーム一番の強みは”チームワーク”。

試合に出られない仲間を含め、全員で励まし、戦う気持ち、今年の県大会の試合を見ていて、ただ仲が良いだけではなく、本当の意味で”一つのチーム”になったと感じました。

5年生の君達へ、このチームでラグビーができるのも後1年。厳しい練習もみんなで楽しもう。

そして、最終学年の6年生、より成長した姿をコーチやお父さん、お母さんに見せてください。期待しています。

5年生の県大会

5年サブコーチ 木下義之

横須賀RSとの初戦、自分は、子供たちを盛り上げる事に気を配り、落ち着いて試合に望めるように、今までは、1時間半前集合、約1時間のアップの予定を、集合時間を30分早めて、2時間前集合、約1時間45分のアップで試合に臨みました。先に2本取られはしましたが、走力(総力)で逆転勝利でき、自分としては、一安心の瞬間と共に、子供たちへの祝福と感謝の時でした。続く相模原戦・田園戦・横浜戦と毎週の試合で子供たちにとって大変な日程にもかかわらず、相模原RS・田園RSに勝利し最終横浜戦は優勝を賭けて望みました。事前に大森コーチより全員の気持ちを盛り上げることが、一番難しい試合とアドバイスを頂いたにも拘らず、後半集中力を切らせてしまい失点を重ね敗戦しましたが、もっと粘れた試合だったと感じています。

子供達は、今年、沢山の厳しいこと・辛い事を経験しましたが、皆で乗り越えてきた結果です。本当にありがとうございます！！

来年は、最終学年、子供たちはまだまだ強くなる筈です。子供・ご父兄・コーチ三位一体で絶対全勝優勝しよう！

3勝1敗

5年サブコーチ 三沢 洋

5年生の2010年度の県大会は3勝1敗で終わりました。

春から選手が努力した事が、結実した素晴らしい結果だったと思います。

初戦の横須賀RSとのゲームは、苦しい坂道ダッシュを乗り越えた結果走り勝つことで得た勝利でした。

2戦目の相模原RS戦も同様で、今までは最後まで走りきられトライされていた相手に、今年は追いつきタックルすることが出来ました。これも走力がもたらした勝利です。3戦目の田園RS戦は接点で相手にひるまなかった事で勝利をつかみました(運も味方してくれました！)。

最後の横浜RS戦は残念ながら負けでした(明らかに力が違っていました！)。が、ゲームの後に涙と共に悔しさをかみしめた選手の顔は、新たなる絆をつむいだ顔に見えました。

選手諸君 本当に良くがんばりました。ありがとうございました。

来年は、集大成となる最後の県大会です。選手 11 人一人丸となって来年の全勝を誓おう！ コーチも全力を尽くします！ みんなで強くなろう！

県大会を終えて

5年コーチ 大坪 功

5年生の皆！期待以上の善戦！本当によく頑張った！

初戦(VS 横須賀 A)で、後半から巻き返して接戦をものに出来たことが何よりの収穫、大きな自信に繋がった。幸先の良いスタートが切れ、そこから一戦一戦の子供たちの成長ぶりは目を見張るほどだった。しかし、全勝を掛けた最終戦(VS 横浜 B)は遭えなく惨敗。力の差が殆ど感じられなかっただけに悔しい一敗となったけど、来年に向けた課題が浮き彫りとなる必要な負けだったと思う。まだまだ準備不足な点がたくさん有ることを痛感させられた。

いよいよ来年は最終学年、絶対全勝優勝するぞ！という強い気持ちで、子供たちと一緒に頑張りたい。週一回の貴重な練習を集中して取り組んでもらえるよう、精神面でもバックアップを心掛け、合間を見てスキルアップのための個別指導も積極的に行いたい。

「県大会」

5年 藤原 卓也

4試合目の横浜戦では負けたけど、前の3試合は勝てたので、4年生のときよりも成長したと思います。ぼくは、横須賀戦で背が大きい人に何回かタックルできたけど、横浜戦ではステップなどでかわされて、前半の最初に横浜に3トライ取られたけど、2トライ取り返して後半に逆転できると思ったけど、ペナルティなどでおされて負けてしまいました。

来年はステップなどでタックルしなくてもタックルに入って県大会で優勝したいです。

初めての県大会

五年 エラガ デヴィッド

僕は、初めて県大会に出ました。毎週 試合が出来てとても楽しかったです。最後の横浜戦では負けてしまい悔しかったけど、11人 みんなで力を合わせ準優勝できたのは嬉しかった。

これからは、もっと練習をして他のチームから麻生は強いから試合するのはイヤだなと思われるくらいになりたい！

横浜戦の日、暁が、頑張っってね！と、みんなに電話をしてくれたの嬉しかったよ！

ありがとう！

来年は絶対優勝する！！

5年生の県大会

5年 小作 航平

今年の県大会で一番うれしかったことは、初めて3勝できたことです。

まず一回戦の横須賀戦では、最初に2本トライされたけど、その後に3本トライして逆転して勝ちました。ここで去年と違った所は、2回連続でトライされたら、去年の4年のときだったらあきらめていたかもしれないけど、今年の5年になってからはあきらめずに戦って逆転したことです。

第二戦の相模原との戦いでは、みんなタックルして相手を止めて、点もとれて勝ちました。ここで去年と違った所は、前はタックルもそんなにいけずに抜かれていたのに、今年はタックルにいけて止められた所と、うまくステップで相手をおかわせるようになった所です。

三回戦の田園戦では、点の取り合いになって、勝ったけどとてもギリギリでした。この試合で去年と違う所は、相手に抜かれてもゴールギリギリで何回かトライをふせいだ所です。

四回戦の横浜との試合では、前半はけっこうかくに戦えたけど、後半でたくさんトライされて負けてしまいました。でもこの試合で去年と違った所は、トライされても声が出た所です。

今年の県大会で思ったことは、これからはもっともっと早くオーバーをしに行かなければいけないと思いま

した。

オーバーの練習をたくさんやって、もっとがんばりたいと思います。

達成と目標のできた県大会

5年 山中 康大

今年の県大会は、うれしかったこととくやしかったことがあります。

うれしかったのは、5年生全員で戦えてトライも皆で取れたことです。今までは、ひとりで持ちこんでのトライが多かったけど皆でつないでつないで取ったトライは気持ちの良さがまったく違いました。それを感じたのは相模原戦でした。相手にトライされそうになった時はフォワードが低く当たり防いでくれ、もぎとったボールをバックスはだいじにつないでトライができた時、これが本当のトライ、なんだ！と感じました。

くやしかったのは横浜戦です。前半は1本差で負けてはいいたけど、気持ちでは相手に負けていませんでした。だけど後半にいきなりトライを取られてしまい、一気に気持ちが下がってしまい点数を重ねられてしまいました。

来年の県大会では、横浜と田園と相模原に今年以上に点数をとられないようにディフェンスを皆で、頑張りたいです。個人としてはもっとパスをパッと出せるようになることを目標として頑張ります。

がんばった県大会

5年生 山本 凌介

ぼくは初めてフルバックで県大会に出場しました。

第1戦目で、ちゃんとタックルなどできるか心配でした。ぼくが抜かれたらトライをとられてしまう確率が高くなってしまいますので、タックルを必ず決めるということを心がけました。1戦目は緊張していた為、タックルだけではなくノックオンなどのミスが何回かあってチームに迷惑をかけてしまいました。でも、チームのみんなが頑張ってくれたので、逆転勝利できました。

もう第2、3戦でチームに迷惑をかけたくなかったので、タックルを一生懸命やり低いタックルができました。第4戦目は、優勝がかかった最後の試合なので、今まで以上に気合を入れて集中して挑みました。最初に3トライを取られて「やばいなあ」と思っている時に、晃平がナイストライをしてくれたので、これで麻生ペースだと思いました。そして、もう1トライをデビィがきめて3対2でこのまま逆転できるかと思っていたら、気がゆるんでしまったせいか簡単にトライを取られて負けてしまいました。

去年は、1勝3敗だったけど今年は3勝出来たので、来年は優勝できると思います。

そのためには練習から気合を入れて、頑張りたいと思います。

「今までより頑張った県大会」

5年 佐々木 晃平

今までは1勝くらいしかできなかったけど、今年は3勝できました。それは夏にやった坂道ダッシュの成果だと思っています。坂道ダッシュをやっている時は苦しくてすごいやだったけど、県大会でいい成績が取れたのはそのおかげだと思っています。それと今までは一人が抜かれたら簡単にトライを取られてしまっていたけれど、今年は一人が抜かれても後のみんなが止めてくれるのであまり点を取られなかったから勝てたと思います。来年は5年生で果たせなかった全勝優勝をしたいです。そのためには今までよりコーチの話を良く聞いて、集中して練習に取り組みたいです。またコーチから色々なサインプレーなどを教えてもらって、試合でいっぱいトライをしたいです。

「不満足な県大会」

5年 佐々木 陽平

今年の県大会は一人一人が頑張ったと思います。フォワードはサインプレーで点を取りに行き、バックスは守りで頑張れたと思います。だけど、最後の負けた試合は相手に合わせてしまって、自分たち本来のプレーができなくなりました。それとすべての試合は「運」もよかったと思います。このままでは6年生になっても優勝はできないと思います。優勝するには楽な練習では駄目だと思います。麻生の弱いタックルを強

くし、走り勝つ練習が必要だと思います。このチームのいいところは一人一人が優しいことだと思います。だれかが失敗しても声を掛けてくれたり励ましたりしてくれます。6年生になってもこのいいところは続けていきたいです。コーチは皆、厳しいけれど、これからもそのまま厳しく指導してほしいです。

5年 白川 幹斗

僕が県大会で一番心に残ったことは、横須賀 A との1試合目で1トライ取ったことです。

2試合目の相模原 B 戦では、タックルがすごくうまくできました。

3試合目の田園戦では、タックルがあまりうまくできてなかったです。理由は、それまでに2勝していて調子に乗っていたからです。

4試合目の横浜 B 戦ではタックルがうまくできず負けてしまいました。

全体的にタックルがうまくできる日とできない日があったので今度は常に低くタックルができるようにしたいです。

優勝することはできなかったけど、初の3連勝が出来てよかったです。

来年は、絶対に優勝したいです。

初めてのボックス

5年 亀田 幹太

ぼくは、この県大会で初めてボックスをやりました。ボックスはフォワードのようにガンガンタックルに行かないが、ぼくが思っていた以上に走力が必要でした。ディフェンスの時もちょっと苦手な1対1をタックルで止めないといけないし、アタックでは味方について行きボールをもらって相手を抜いてトライを取らなくちゃいけません。とても不安でしたが、試合では味方からボールをもらってトライを取ることが出来ました。いいパスも出せました。相手につかまってあばれてボールを味方に回すことも出来ました。チームの結果は3勝1敗で準優勝でした。来年もボックスで6年生の県大会に出て今度こそ優勝したいです。

「県大会」

5年 梅津 暁

ぼくは、この県大会は良かったと思います。みんな心を一つにして低いタックルや、いいオーバーができていたからです。それは、毎週の成果だと思います。結果は準優勝だけど来年はもっと練習をして、いいタックルやオーバーをして優勝したいです。

県大会

5年 越野 良我

今年の県大会のうれしかった事は、去年と違って4戦中3勝1敗というせいせきで、準優勝だったからです。

まず、一戦目の横須賀とは、前半の最初に2トライとられてなかなかおしかえせず、「このまま負けちゃうんじゃないか」と思いました。けれど前半ギリギリのところまで同点において、ぼくは「よかったー」と思いました。ぼくは、後半ベンチに下がって「この後、トライを取られちゃうんじゃないか」とか、「みんな、トライを取って」と思っていたらトライを取ってくれて勝利「やったー」と思いました。そのあと、2戦目も3戦目も無事に勝って、4戦目にきて横浜と当り、みんなタックルに行っていたけど、どうしてもぬかれて2本8本で負けてしまいました。

昨年と今年の違うところは、今年は、みんな声が出ていたことと練習のやりかたもきつかったし、何よりも成績が違うことです。でも来年は、ぜったい4勝して優勝したいです。

5年小作航平の母 小作 照美

5年生の県大会は、ビックリするくらい子供達から感動をもらいました。

たとえ相手にリードされても、この子供たちはそこから巻き返すことを覚えました。

ゴールラインに攻め込まれても、一生懸命カラダをはって止めてくれました。
それは、絶対あきらめない、絶対勝ちたい、そういう気持ちだと思います。
夏のツライ練習を乗り越えて、手にできた成果はとても大きかったのではないのでしょうか。
ずっと目標だった相模原・田園に勝利して、5年生一人ひとりが、大きな自信を手にしたと思います。
これからの彼らがとても楽しみで、母たちは日大グラウンドに行かずにはいられないと思います。
コーチの皆さま、熱いご指導本当にありがとうございます。今後ともどうか宜しくお願いいたします。
母は、これからも皆勤賞を目指して、この最高の子供達を応援していきたいと思っています。

県大会

五年 エラガ デヴィッド母

デヴィイにとっては 初めての県大会 四週連続で試合が出来る！と 大興奮！
それまでには 色々、葛藤はあったものの 皆のお陰で乗りきる事が出来ました。
4試合を通して 11人 それぞれの想いはあるかと思いますが デヴィイが初めて 出た試合からみると
全員が色んな面で遥かに たくましくなり 絆が深まったなと 感じました。
後 一年 更に成長する彼らを 私達、母は見守りたいと思います。
素晴らしい 試合を見せてくれて ありがとう！！

「8分間の県大会」

5年 梅津 暁の母 梅津 明子

暁は5年になってから、以前から習っていた水泳が忙しくなり、練習に参加できなくなったり、水泳の練習後、遅刻してのラグビー練習と厳しくなり一度はやめようと悩みました。
そんな時、どんな形でも良い。暁が練習に来たいときにすれば良いからやめる事はないと、コーチも仲間も言ってくれて暁もラグビーを続ける気持ちになりました。
県大会の練習にもほとんど参加できませんでした。練習に行っても本人はフォーメーション練習に参加するつもりが、行けばディフェンスになり、暁から「練習に行っても意味がない」と言われた事もありました。その時は練習に参加してもフォーメーションを練習ができないという焦りから出た言葉だったと思います。家では、「ラグビーはフォーメーションだけ？幼稚園から今までコーチに教えてもらった基本のプレーと自分ができるプレーが一つでもあれば良いプレーができるはずだよ。なかなか練習に参加できない暁を大切に思ってくれる仲間、コーチがいるから続けてこれた。やっぱり暁にいてほしいと思うプレーをすることが大切だ。練習にも、ほとんど参加できていないから試合に出られるか分からないけれど、仲間を応援してきなさい。」と話をしました。
県大会の日程と合った日は、一日。試合に参加できたのは後半8分ほどでした。
ベンチいる時から、仲間を声かけ一生懸命応援をする姿。早く自分も出たい！という勢いも伝わってきました。あんなベンチでの真剣な顔は初めて見ました。勿論、8分のプレーも。暁がこんなに一生懸命になれたのも、仲間やコーチ、周りの方々のおかげだと思っています。
これからも、たくさん経験し、心も体もたくましく成長して欲しいです。引き続き、ご指導よろしく願います。

4年生



- (1列目左から)・川原奨平・伊藤大吉・西野響太・横島拓朗・寺田大起・萩原睦・大坪勇太・安井健太
・武井コーチ
- (2列目左から)・小作コーチ・真山拓也・井上謙亮・佐藤公亮・野川真・松田優一・斎藤祐太・濱田透唯
・菅原健人・大森公乃祐・中司大也・宮澤朋輝
- (3列目左から)・向野コーチ・斎藤祐太(母&妹)・寺田大起(母&弟)・横島拓朗母・野川真母
・中司大也(母&妹)・大坪勇太母・濱田透唯母・田口コーチ
- (4列目左から)・重住コーチ・渡部コーチ・毛利コーチ・山中コーチ

「4年生の県大会を終えて」

4年生コーチ 小作 紀昭

今年は開幕日から最終日までの長い日程(雨天延期も含む)の県大会でした。

昨年に続き、全試合、全員参加ができました。皆さんの協力、有難うございました。

A/Bチームとも、各4試合(計8試合)に出場(去年は7試合)、怪我なく無事に終えることができました。

<試合結果>

Aチーム 47 vs 7 YC

Aチーム 28 vs 10 横須賀A

Aチーム 42 vs 19 大和A

Aチーム 7 vs 59 田園A

Bチーム 66 vs 0 川崎A

Bチーム 5 vs 42 鎌倉A

Bチーム 0 vs 77 田園B

Bチーム 43 vs 28 藤沢B

(全8試合:5勝3敗)

両チームとも全試合、気迫ある試合ができたことは大変良かったと思います。

田園との試合では大差が付いたものの、最後まで声を切らず、下を向かず、やり切った感を皆から感じました。点差の原因…下のボールの意識とどうやったらボールがつながるか？という部分で田園との差があった思い、子供達が相手を直向に止める頑張りが結果に生かせなかったことはコーチとして、教え方の課題として受け止めなければならぬと思います。

反対に厳しいことを言いたい所では相手を格下に感じたであろう試合では、練習してきた全員ラグビーを忘れ、個人プレー(自分本位)の気持ちが見えたことは残念(いえいえ！お前らムカつく！私同様、4年生やかましコーチ代表の向野コーチも怒り狂って、嬉しく思います。)でもありますが、4年生の子供達なりの気持ちが見え隠れする彼らなりに“成長”を感じる部分でもあったと今は思います。(苦笑)

味方の試合を応援する姿勢では各自から自然な声かけも多いにあり、コーチから指示することもなくキックイーを自ら手を挙げ→仲間に運ぶ姿もあって、チームの纏まりが出て来たことは嬉しく思っています。味方を応援する余り、相手のミスを喜ぶ場面があったことはラグビーをする人としてはメンタル指導が足りていなかったと自らを反省し、今後の指導を正して行きたいと思っています。

県大会を終えて、もう次の新5年生9人制(19人で2チーム)に向けて、チームの新体制、新ポジションで悩み所です。

県大会が終わったらもうすぐ餅つき(新年)です！とにかく時間は早いんです。

でも…皆でどんどん進みましょう！

「チーム力がついた4年生」

4年生コーチ 山中 淳郎

4年生のみんなへ

県大会ほんとうにお疲れ様でした。大勝、大敗、競ったゲームでの勝利と結果はいろいろあったけど、ほんとうによく頑張ったと思います。全員が今の持てる力を出し切って戦ったことがコーチ達は大変うれしく思います。

今年の年度始めにかかげたスローガンは“ONE FOR ALL”でした。個人プレーをやめてチーム全員でつなぐラグビーをしたい、コーチ達はこの思いでスローガンをつくりました。新しいチーム体制、猛暑での練習、菅平での夏合宿を経て、君たちは大変成長して、県大会ではこのつなぐプレーを随所で見せてくれたし、全員がタックルやスweepに勇氣を持って入ったよね、感激した場面がいくつも頭に浮かびます。その頑張りの結果が、赤チームは3勝1敗の準優勝、紺チームは2勝2敗の3位と立派な戦績でした。ほんとうにおめでとう！！

負けた3敗(田園2敗、鎌倉1敗)は、来年への課題としてラグビーの神様が残してくれたものです。7人制から9人制となり、さらにチーム力を高めることが求められます。

でも君たちならば大丈夫です。どんなに苦しくても辛くてもこの19人の仲間がいる限り乗り越えていけます。

最後にご父兄の皆様、今年も1年間暖かく見守っていただきましてありがとうございました。来年も三位一体まとまっていきましょう！よろしく願い申し上げます。

「県大会をふりかえって」

4年生コーチ 渡部 眞久

今年の大会は全試合を見られませんでした。年初の頃からすごく成長した部分と、まだまだ指導(練習)が足りなかった部分が、はっきりと試合のなかで現れました。

一番成長した部分はなんといっても「タックル」です。

春先まではどうすればできるようになるのか、正直わからなかったのが、簡単・単純な練習を繰り返すうちに少しずつできるようになり、今では全員が果敢なタックルを決め、他のチームコーチからもすばらしいと言ってもらえるくらいの「タックル」のチームになれたと思います。

これにボールをつなげさせないタックルも加えてより一層タックルに磨きをかけましょう。

次に成長したのは「スweep・オーバー」です。

まだまだ一人でしかできませんが、ポイントに入るスピード、押し込み方が、格段に進歩しました。

「バインド」の練習も加え、集団として力強いスイープができるようになりましょう。

さて、これからもっと練習しなければいけないことは、下のボールへの意識、ボール獲得への執着心だと思います。

7人制から9人制へと移行し、これからどのような練習メニューが必要かをコーチみんなで考え、強いチームになれるべくみんなを見守りたいと思います。

来年の県大会で今年以上の成長を達成したみんなと、「優勝」の感動を分かち合える努力(厳しい練習)していきましょう！

「4年生の県大会を終って」

4年生コーチ 武井 智之

君達の学年を担当するようになっての初めての県大会でした。

大変悔しい思いをした、田園戦以外は君達の頑張りを見守ることができました。

どの試合も、皆良く走り頑張っていました。しかし、君達よりも相手のほうが声も出ていて「絶対に勝つ」という気持ちが強いチームには残念ながら負けてしまいましたね。

負けてしまった原因は何か？ みんなで考えましょう。そして、来年に向けもっと強くなりましょう。

試合を見ている人がよく「麻生の子供は優しすぎるから」と言いますが、本当の優しさは「困っている人や仲間がいたら、助けてあげられること」だと思います。

ぜひ、来年は本当の優しさを発揮してサポートし声を出して行きましょう。

ご父兄の皆さん、応援大変ご苦労様でした。みんな本当に良く頑張っていました。まだまだコーチング不足のため、子供達に悔しい思いをさせてしまいました。

これからもより多くのコーチミーティング(飲み会)の機会により良いコーチングについて研究していきます。引き続きの応援宜しくお願いいたします。

「県大会を終えて」

4年生コーチ 田口 幸吉

今年の県大会は我が家の長男が高校最終学年ということもあり、決勝戦を優先させていただいたので三菱重工 G での試合には参加できず失礼しました。

4年生の戦いぶりについては勝った試合、負けてしまった試合共に個々では練習の成果が出せたのではないかと思っています。

低いタックルにいくもの、まっすぐ突進していくもの、見事にオーバーを決めたもの、それぞれにいい仕事している場面は多かったと感じます。

欲を言えば低いタックルの後にボールを奪いに行くホローが欲しかった。

突進した仲間をもっと押してあげる力が欲しかった。

オーバーの後に素早くボールをラインにつなぐプレーが欲しかった。

さあこれからは9人制ラグビーになりもっとチームワークが必要になります。

個々の力にさらに磨きをかけて5年生ラグビーの上を目指して頑張りましょう。

県大会

4年生 伊藤 大吉

ぼくがこの県大会で一番うれしかったのは、田園から一本トライを取って、田園の2年連続無失点記録を阻止したことです。一本トライを取ったあともあついタックルや強い気持ちをもってすごくいい試合だと思います。

これでぼくの来年の目標が決まりました。それは田園から一本トライを取るだけではなく勝つことです。

来年の県大会は麻生が全勝優勝します。

4年生 井上 謙亮

ぼくが田園戦でできたことは、ボールをもって前に走れたことと、合宿からずっと目標にしていたオーバ

ーがうまくいったことです。うれしかったです。できなかったことは、ボールをもって走っているとき、相手にタックルされ、そのままノックオンしてしまったことです。こんどはタックルされても仲間につなげるようにがんばりたいです。来年はみんなで力を一つにして全勝したいです。

「県大会を終えて」

4年生 大坪 勇太

1 試合目の川崎戦では完封勝ちできました。でも、僕(センター)の動きは、相手が沢山いる所ばかりをニョロニョロ入ってしまい、あまり良くなかったです。相手のタックルのパックが弱かったから抜く事が出来たけど、強い相手にはそういう事は通用しないという事が分かりました。

2 試合目の鎌倉戦では、最初に僕が先制点を入れて良い調子だったのに、相手が次に点を入れてからどんどん僕たちは落ち込んで、結局ボロ負けしてしまいました。みんなが落ち込んだ時、もっと声掛けすればよかったナアと後悔しました。

3 試合目の田園戦では完封負けしてしまいました。特に後悔したのは、ディフェンスの時、僕が前になかったから、センターとウィングの間にギャップが出来、そこを相手のセンターに抜かれた事です。凄く悔しかったです。

4 試合目の藤沢戦では、前半は調子良かったのに、後半は、僕が相手のカラクロに引っ掛かり2トライも奪われたり、相手の女にもペナルティの時にトライを入れられるという、凄くくだらないトライの入れられかたをしたので、勝ったけど、悔しかったです。

来年の県大会は、バックスみんなでギャップが出来ないように前に出る事とタックルを今まで以上にガムシヤラにしまくる事と声掛けを頑張りたいです！！

「県大会の感想」

4年生 大森 公乃祐

ぼくは県大会で一番良かったと思うのは、田園との試合でトライを1本うばって、田園の無失点をやぶったことです。あとタックルをたくさんして相手を止めたところです。

県大会で少し悪かったと思うところは、大和の試合でディフェンスが少し悪かったところです。けど、今年は3勝1敗だったから来年の県大会は3勝1敗じゃなくて4勝したいです。だからたくさん練習をして今度こそは田園に勝ちたいです。

「がんばった県大会」

4年生 川原 奨平

練習してきたスweepとタックルを県大会でやれたからうれしい、これからもがんばりたい。サポートは少ししかできなかった来年の目標にしたい。

対戦したどのチームも強いと感じたのもっと練習をやって強いタックル、速スweepにいけるようにしたい。また、来年もタックルや強いあたりで活やくしたい。

「県大会で学んだこと」

4年生 齋藤 裕太

僕は県大会で大切なことを学びました。

1回戦は自分の満足できる試合ではありませんでした。それでも2回戦、3回戦と続く中で少しでも、チームのために強くなろうと思いました。最後の試合では、前半のキックのときに相手にタックルを何回も、何回もできました。最後に自分の満足できる試合をできて良かったです。

来年の県大会は今よりもうまくなってチームのみんなと全勝したいです。最後にチームプレイはひとりが頑張っているだけではなく、みんなでホローして、ボールをつなぎトライをすることが大切なことだと学びました。

4年生 佐藤 公亮

ぼくが県大会でがんばったことは、タックルです。ぼくは、前の県大会ではタックルがあまりできませんでした。でも今年はタックルがうまくつかえるようになったので、試合でもがんばることができたと思っています。

これからぼくががんばりたいことは、ランパスです。ぼくは走るのがあまりはやくないので、みんなにおいつくことができません。そういう時に仲間とランパスでつないでいき、トライをとることができたらいいなあ...と思います。

来年は全勝目指してがんばりたいとおもいます。

「4年生県大会での感想」

4年生 菅原 健人

県大会でうれしかった事は、藤沢と試合をしてコンバージョンでゴールに入ったことです。次は、もっと軽く入れるのが次の目標の一つです。

二つ目の目標は、前に出てパスをもらい、体を味方に向けずに顔だけ向けて、パスを強く取りやすいところに出すことです。

県大会で一番やさしかったのは、田園 B と試合をして負けたことです。でも、ぼくはこの試合で何回もタックルができてよかったと思いました。三つ目の目標は、田園に勝つことです。

「県大会を終えて」

4年生 寺田 大起

ぼくは、田園戦が一番印象に残りました。なぜかというと、田園Bは足が速くて、タックルをしようとしても、なかなかきめられなかったからです。今年の県大会では、力強いタックルをどうしてもきめたかったのに、悔しいです。川崎戦では、ボールを持って相手に強くつつこみ、トライがきまり最高にうれしかったです。

これからの課題は、相手に力強いタックルを何回もきめることです。

「くやさかった県大会」

4年生 中司 大也

ぼくは県大会に向けて練習を必死にがんばった。強い田園にも勝つ気で県大会に望んだ。大会第一戦目はきんちょうせず試合が出来た。結果勝つ事が出来た。タックルとつなぐパスをそれぞれみんなが出来たからだと思う。第2試合も勝った。第3試合の相手、大和は3年の夏合宿のサニアパークでの試合で負けていたので、勝った時は特に嬉しかった。このいきおいで、田園にますます勝てる気がした。父から田園は全試合完封勝ちしている事を聞いてビックリした。でもこのまま完封勝ちしてほしいと思った。当日、強い気持ちで望んだので、先制点を探ることが出来た。しかし相手もすかさず点を探ってきた。結果負けてしまった。とてもくやさかった。

次の練習から9人制になりチームも変わるの、また新しい気持ちでがんばりたい！

来年の県大会は優勝するぞ！！！！

「たくさんタックルの練習をするぞ」

4年生 西野 響太

今年の県大会でぼくは、タックルがたくさんできました。

けれども、田園との試合では、全くタックルができなかったです。なので、たくさんタックルの練習をして、次の田園の試合では、タックルを決めていきたいです。

「県大会」

4年生 野川 真

ぼくは、今年の県大会では、全勝優勝を目標にのぞみました。ぼく達のグループは、YC、横須賀 A、大和 A、田園 A でした。初戦の YC 戦は、パスがよく回り、快勝しました。第2戦の横須賀 A 戦は、みんなが

しっかりフォローし、パスをきれいに回り、勝つことが出来ました。第3戦の大和戦は、勝ちましたが、あまりタックルが出来ず、満足のいく試合をすることが出来ませんでした。最終戦の相手、田園 A には去年の県大会で負けたので気合いを入れていきました。1本目を先取したものの、その後、全く相手を止めることが出来ず、負けてしまいました。同じ相手に2度負けるといふ屈辱を味わいました。来年こそ、全勝優勝したいです！

「来年も」

4年生 萩原 睦

ぼくは今年、タックルを頑張ったと自分で思います。
来年は今以上にタックルを頑張りたいです。そして来年の県大会は優勝したいです。

4年生 濱田 透唯

ぼくは、今年の夏合宿の後の練習で足を骨折してしまいました。県大会までの練習に一回も参加できず大会は、始まってしまいました。大会1試合目は グラウンドの外から応援しました。すごく悔しかったのでなんとか頑張って練習して、2試合目から参加することができました。

今年も田園には勝つことができず、悔しくて悲しかったので、それをバネに練習して、来年こそは全勝優勝をしたいです。

「県大会」

4年生 松田 優一

さい後に田園に負けてしまったので来年は勝ちたいです。

「県大会の感想」

4年生 真山 巧也

深沢グラウンドで練習の時右肩をいためてしまった。でも試合は痛いながらも試合に出られてよかった。具合が悪くて気持ちも悪くて練習や試合はやだったけどがんばりました。

「県大会でできたこと できなかったこと」

4年生 宮澤 朋輝

県大会でできたことはタックルで相手を倒せたこと、パスをせいにかくになげられたことです。

県大会でできなかったことは田園の人をたおせなかったことです。

来年は田園をたおして田園に勝って優勝したいです。

「県大会初準優勝」

4年生 安井 健太

今年の県大会、ぼくたち赤チームは準優勝でした。だけど試合の中ではあまりいいタックルができませんでした。今度の九人制では必ずいいタックルをしたいです。

試合で勝つためには、家で練習したり、練習で思いっきりタックルしたりします。

「県大会」

4年生 横島 拓朗

僕は県大会で、かまくらに負けたのがくやしかったです。県大会の前は勝てたのに、すごく強くなってました。急に強くなり、もっとがんばりたいと思いました。そして田園とあたったとき、みぞおちにあたり、ものすごくおなかがいたくなり、泣きました。もっと、どんな相手にタックルしても、いたくても続けるようにしたいです。ふじさわ戦のとき、けんとがたくさんパスやコンバージョンキックを決めてくれたので、うれしかったです。

「四年生の県大会」

4年生 伊藤大吉 母 由美子

今年の県大会は、初戦から、やる気満々、チームワーク抜群の気合いの入ったものでした。声を掛け合い、パスをまわし、各ポジションが自分の仕事をがんばる、チーム全体のレベルアップを感じました。応援している母達の心にも感動をありがとう。

これからも仲間を大切に、スポーツの楽しさをもっと知ってほしいです。

「幼稚園からラグビーをはじめ、大吉は増えた、増えたと言われてきましたが、何が増えた確信しました。… それは仲間です。(体重も)」 BY 大吉

コーチの皆様、いつも熱いご指導ありがとうございます。これからも宜しく願いいたします。

「県大会について」

4年生 松田優一 母 紀子

今年の県大会は主人の葬儀直後に始まった為、息子を参加させられるか心配でした。最後まで参加できたのは、根気強く声をかけてくださった小作コーチ、中司さんをはじめ、変わらず接してくださったコーチやお母様、お子様方のお陰です。有難うございました。

息子は主人の遺志(ARSを続けてほしい)を汲み、仕方なしに(コーチの方々申し訳ありません!)通っているのかと思っていました。しかし勝ち進むにつれ試合そのものが面白くなってきたようです。朝起きると無言で支度をするようになりました。最終戦で田園を相手に苦戦したことはよい経験になりました。去年完敗した相手から、チーム一丸となってワントライ奪えたこと、逆にその後一点も追加できなかったこと。あと一分あればもうワントライ、の勢いを見せて終わった素晴らしい試合でした。ちなみに紺チームの田園戦、捨て身の連続タックルには、練習時の頑張りが思い起こされ、泣きました。

「4年生」

4年生 横島拓朗 母 由紀

涼しい菅平での感動の練習と交流試合が終わり、その後空前の猛暑の2ヶ月、バタバタと熱中症で倒れるこどもたちの中で、「たらい」が活躍し、4年生は各自氷とタオルを持参し水浴びをしながらの練習、がんばってくれました。小さいときはご褒美や抱っこでがんばれた男の子が、少しずつ少年になり、抱っこはもちろんご褒美も効果がなくなって、気分にもムラがあったり、反抗したり、いっちょまえに批判したり、結構めんどくさい年頃です。でも自分たちでチームのこども同士の役割分担や声かけを考えるようになり、そしてうまくいったときの達成感や一体感を体験したり、女親から見るとこの仲間たちと過ごしている君たちが非常にうらやましい。これって子離れできない母の嫉妬でしょうか。今年の県大会は点数としては「負け」でしたが、「がんばる気持ち」は「優勝」だったかな・・とまだまだ親ばかです。自分の身体とところを使って、声を出して、仲間と一緒にひとつの目標に向かっていく体験や、負けてしまってもがんばれた体験は来年、再来年にきっと生きてくる栄養であると信じます。いつも多くの支援をしてくれるスクールのコーチ、関係の方々感謝！

3年生



齋藤がく、津国ひろたか、向野りょうや、森田けいいちろう、熊谷ゆう、齋藤ゆうと、小島りょう
小野こうた、海老原とあ、丹野しょう、木下たすく、古田くう

「やさしさ」と「厳しさ」を

3年チーフコーチ 曾我浩

3年生は、2勝1敗の成績でしたね。

全勝を目指して戦いましたが、今の3年生らしさが出た、正直な結果ではないかと思います。

勝つことだけが目標ではありませんが、高学年になる前に、みなさんに身につけてもらいたいことは、これからも優先して取り組むつもりでいます。

夏合宿から、言ってきたことですが、「声を出すこと」、「ファイトする気持ちをもつこと」は、これからもいつも忘れずにがんばりましょう。

また、ラグビーは「仲間を助ける」ことを教えてくれるスポーツだと思います。

『仲間を助けないやつは、選手である前に、男じゃない。』

元日本代表キャプテンで、正月の高校ラグビーで、30年ぶりに出場することとなった福岡高校の森重隆監督の言葉です。

みんなには、ただ、やさしくするだけでなく、仲間を思いやる「やさしさ」を。

いったんグラウンドに入ったら、熱い思いで最後まで何事もやり通す気持ちを持つための「厳しさ」をラグビーで学んでほしいと思います。

どんなチームと当たっても負けることない強いチームを目指してこれからもがんばろう！

ご父兄のみなさま。いつも応援ありがとうございます。

この学年は、話をすればよくわかる子ばかりです。

あとは、頭でわかっていることを体で表現できるよう火をつけるのが、コーチの大きな役割だと思っています。

新年から、ポジション変更はじめ、いくつかの試みをしながら、春の交流試合に向けてがんばりたいと

思います。引き続き応援よろしくお願いします。

初めての県大会を終えて

3年サブコーチ 外岡 幸隆

初めての県大会:2勝1敗で、ブロック準優勝で、終わることができました。

10/24 麻生○40(トライ6+ゴール5)－ 5(トライ1+ゴール0)●横浜D

11/14 麻生● 7(トライ1+ゴール1)－15(トライ3+ゴール0)○鎌倉B

11/23 麻生54○(トライ8+ゴール7)－ 0(トライ0+ゴール0)●茅ヶ崎B

春に、「ファイトする気持ち」が出ず、大変心配しましたが、シーズン最後は、いい形で終わることができました。勝った2試合の勝因は、ラインディフェンス・キックオフの出足でした。狙っていたCTBでの「抜けるクラッシュ」は、何度も成功しました。一方負けた試合は、途中で「戦う気持ち」が失われ、競り負けてしまいました。試合中に「声」がでない。接点でのファイト負け、2次攻撃につながらないなどの課題は、来年に持越しです。もう一度基本に戻り、パス、タックル、激しいファイトをくりかえし練習し、「チームプレイ」を意識したさらに高いレベルを目指したいと思います。また、色々なポジションを経験してもらうために、大幅な「ポジション替え」も計画していきますので、ご理解をお願いいたします。

2勝1敗の県大会

3年 森田恵一朗

県大会は楽しかったです。その中でも、試合中走っているときが楽しかったです。

① がんばれたこと

僕ががんばれたなと思ったのは、タックルです。タックルをして相手をとめた時は、とても気持ちよかったです。

② がんばれなかったこと

がんばれなかったことは、声を出すことです。どの試合も前半は声を出せましたが、後半はぜんぜん出せませんでした。

③ 来年へむけて

来年の県大会は全勝したいです。来年はもっと上たつして、強いチームになりたいです。強いチームともたたかいたいです。

「県大会の振り返り」

3年 古田 空

今年の県大会は、2勝1敗でした。

県大会では、コンバージョンキックや、パントキックができました。ほかには、声を出したりができました。練習でも声やパントキックをできたから県大会でも出せたと思います。鎌倉と戦ってボロボロにやられたからこの1敗は、いつまでも心に残ると思います。皆もコーチも最終戦では気合いがはいっていたから勝てたと思います。

来年は、絶対全勝優勝をしたいと思います。

初めての県大会

3年 小島 稜

ぼくは、初めての県大会でした。

一せん目は、四分の一しかでられなかったから、少ししか力をださきれませんでした。でも、かちました。

二せん目は、四分の一でがんばったのに、まけてしまいました。

げんいんは、オーバーができなくて、タックルもあまりできなかったからです。

三せん目は、また四分の一でかちました。なぜかという、心が強くなっていて、タックルができたからです。でも、オーバーができなかったので、ざんねんでした。

来年の目ひょうは、オーバーをたくさんして、全しょうすることです。

そのためには、たくさんれんしゅうして、来年の県大会でかちたいです。

県大会の反省

3年 小野 航大

1 試合目、勝ててよかったけれど、オーバーやタックルがあまりできなかった。
自分がかまった時、ボールを後ろに置くことは、できた。
2 試合目、相手がおおきくて怖くてタックルになかなかいけなかった。自分に余裕がなかった。
3 試合目、フォワードになって初トライ。モールから押して押してトライできてうれしかった。仲間にボールをつなぐことができた。ラックのときにオーバーができた。
県大会、準優勝、よかった。

初めての県大会

3年 齋藤裕人

県大会では、鎌倉に負けてしまったけれど他の試合は勝ててうれしかったです。
でも僕の目標だった県大会で優勝することができなかったのが悔しいです。
鎌倉に負けたときは悔しくて涙がでてきて、止まりませんでした。
最後の試合はみんなで力を合わせて完全試合ができてとてもうれしかったです。
県大会が終わったあとの打ち上げでは自分の言いたかったことをはっきり言えて
すっきりしました。
来年の県大会では絶対、優勝したいです。練習がんばります。休みません。どんぶり
ご飯食べます。

県大会感想

3年 津国大喬

今大会でできたことは、ケイイチロウについて行く・仲間がかまった時にフォローをすることです。
できなかったことは、オーバーとタックルです。来年は県大会でトライを取って全勝したいです。
今年は試合をするたびに、チームのつながりが良くなってきました。来年はもっとチームワークをよくしたいです。

うれしかった県大会

3年 熊谷 優

一番うれしかったことは、さい後の試合です。
なぜかという、トライも1本出来たし、タックルがいっぱい出来たからです。
次はオーバーをいっぱいしたいです。
くやしかったことは、県大会の二試合目です。
二試合目は負けてしまいました。
もっとタックルやオーバーをたくさんしていれば勝てたと思う。
だから4年生になったら、これをいかしたいです。

「県大会」

3年 斉藤 岳

県大会でできなかったことはタックルとトライです。
できたことは、なかったです。
次はトライとタックルを決めるように練習がんばる。

「初めての県大会」

3年 海老原翔空

はじめての県大会で2勝1負でした。来年は勝ちたいです！

県大会でできなかったこと

3年 丹野翔

内容:県大会でハーフとしてできなかったことは、声出しとボールをモールやラックから出すことです。ペナルティなどのチャンスがなかなかトライに生かせませんでした。四年生に向けて、声出しをがんばりたいです。

県大会

3年 向野椋耶

県大会さい後のちが崎せんでトライを決められたのはうれしかったけど、タックルを決められなかったのがとてもやさしかったです。れん習でひくいタックルのれん習をして4年生の県大会ではタックルを決めたんです。

やる気スイッチ

3年 齋藤裕人の母

裕人には「やる気スイッチ」があります。言葉のとおり、スイッチがはいるとコーチもびっくりするような力を発揮します。でも残念なことに誰もこのスイッチがどこにあるのかがわからず…。それが県大会最終戦前夜、突然「あっ、俺、前の試合でスイッチ入れてなかった～！」と言ったのです。そして最終戦の朝、「俺、今日はスイッチ入れるからね！」と宣言！

そして裕人は宣言どおり、スイッチを入れたのです！見ていて鳥肌がたちました。

素晴らしい試合でした。試合後、誇らしげに満面の笑みで戻って来た裕人、母はとても嬉しかった！はずかしがりやで体も小さく、みんなについていけないのかしら？と心配したけど、そんな心配はもう必要ないですね！優しくて、仲間思いの裕人。来年は目標どおり「県大会優勝」してまた素敵な笑顔を見せてくださいね！

コーチの皆様、いつも裕人を温かく見守っていただきありがとうございます。これからもよろしくおねがいいたします。

3年生の県大会を終えて

古田 容子(3年 古田 空の母)

コーチの皆様、いつも熱心な御指導ありがとうございます。

特に佐藤コーチ！！毎回欠かさず遠方から練習に来てくださり大変感謝しております。

はじめての県大会は2勝1敗という結果でした。最終戦に勝利した時は応援に行けなかったのですが、メンバーのお母様が戦況を報告してくれて、そこにいるかのように試合を楽しめました。

試合後の打ち上げで、子供達全員が真剣なまなざしでコーチのアドバイスを聞いている姿にとっても感心すると同時に、コーチ・子供達の晴れやかな顔を見ることができ、とてもうれしく思いました。

私の一番の願いは、「ラグビーを通じ一生の友をたくさん作ること」です。

皆で一生懸命練習し、時には楽しく遊び、より一層仲良くなってくれることを希望いたします。

コーチの皆様、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

準優勝おめでとう！

3年生 丹野翔の父 丹野敦

準優勝おめでとうございます。私は3戦のうち、幸いにも鎌倉B戦は観戦しなかった
ので勝ったところしか見ていません。特に茅ヶ崎B線は圧勝でほれほれしました。
まだチームプレイでトライまで持ち込む機会は少ない感じもしますが、RSに入っ

たころから比べると相当成長したなあと感心し、コーチの方々にも感謝しております。来年度もご指導どうぞよろしくお願いいたします。

2年生



太田 コーチ	山本 コーチ	児玉 コーチ	東野 コーチ	本田 コーチ	横尾 コーチ	津国 コーチ	川原 コーチ
日笠 壮太	吉田 俊介	野村 雄亮	富田 心平	東野 振一郎	小坂 海歩	熊谷 祥	
		齋川 夏央	野村 心平	児玉 将梧	宮坂 瑛人	津国 千智	
		熊谷 コーチ	萬場 康生	太田 佳吾	本田 大		
		古田 コーチ		千秋 武尊	野田 怜佑	山内 太朗	

秋季ミルキー大会を終えて

二年チーフコーチ 野村文雄

二年生のシーズンが終わりました。気合を入れて臨んだ最終戦(11月23日)は、残念ながら雨天で中止となってしまいましたが、今年の後半は、多摩市ラグビー祭での三試合、なぎさ公園で行われた横浜市民大会での四試合と、全試合とも気持ちよく勝利することが出来ました。試合が終わった後の、子供達の嬉しそうな充実した笑顔に感激していました。

子供達は皆、体力は勿論のこと、精神的にも確実に成長しています。練習に対する取り組みも、試合の時の表情も、逞しさと頼もしさを感じます。自分達の頑張りや工夫で勝ち取った勝利は、子供達一人一人にと

っての大切な成功体験であり、よりラグビーが楽しくなり、自信がつき、仲間との結束を強くすると思えます。

二年生保護者の皆さん、日頃はラグビースクール運営にご協力頂き、心から感謝申し上げます。早いもので、私のチーフコーチとしての任期も、残すところ一ヶ月となりました。慣れない役割ではございましたが、皆さんのご協力のおかげで、何とか任務を全うすることが出来そうです。ありがとうございました。

三年生からはルールが変わり、コーチ陣も大部分が入れ替わります。子供達はこれまで以上に、身体と精神を強くし、菅平合宿に県大会に全力でぶつかってってくれることと信じています。麻生ラグビースクールで出会えた大切な25人の仲間達が共に成長し、最強の世代となることを祈り、感謝を添えてご挨拶とさせていただきます。

2年生を終えて

2年サブコーチ 古田 十

幼稚園から関わりはじめた子供たちと3年が過ぎようとしています。子供たちのことも大分理解しました。子供たちの、性格はもちろん、その心身の成長はまったくまちまちで、ラグビーにおいてコーチはその環境を整え、(成長を)「待つ」のが役割だと考えています。コーチの求めるレベルが高くないかどうか、楽しいと思わせられているかどうか、もっと子供同士競わせるべきか否か、叱咤激励はどこまでが適切か・・・思うことは多いのです。どの学年にも言えることではありますが特にこの学年、「勝つのは子供の力、負けたらコーチの責任」ということを強く感じます。

仲良く、楽しく、熱く、激しく！！

よくがんばった二年生 ミルキー交流大会を終えて

二年生コーチ 山本慎一

この学年を担当することになってから、早くも1年が経過しようとしています。最初に会った頃はまだ幼かった君達が、今では立派なラグーマンに成長しています。ミルキー大会もみんなのがんばりで4チーム全てで勝つことができました。特にうれしかったのは、今まで少しラグビーを苦手にしてきた子供が、勇気を振り絞ってタックルや縦突進をしていたことです。恐怖心があるのに、チームの為に体を張っている姿には感動いたしました。日頃から休まずに練習をまじめにしていたことの成果だと思いますし、そのおかげでチーム力も数段上がりました。これからもがんばろうぜ！又、一方で残念なことがあり、チームの中心としてがんばっていた子供がけがをしてしまいました。何よりも優先されなくてはいけない安全面という点で、改めて気をつけていかなければいけません。1日でも早くけがを治して、またみんなと一緒にラグビーが出来る日を楽しみに待っています。がんばれ！

タックルいっぱい！！

2年 野田 怜佑

タックルであい手をたくさんおしたら、なかまがボールをとってトライをしてくれたから、うれしかったです。こんどはトライもがんばりたいです。

ミルキー大会

2年 山内 太朗

前からつっこんで、トライを2回決めて気持ちよかったです。全試合勝ててうれしかったです！これからも全部勝つようにがんばりたい。

ミルキー大会

2年生 萬場康生

勝てて良かった。

ミルクィー大会

2年生 千秋武尊

仲間の凄いプレーを僕もマネしたいと思いました。強い相手とまた良い試合をしたいです。

くやしかったミルクィー大会

2年 みやさかえいと

この間の試合ではすごくくやしかった場面が二つあります。一つ目は、トライのところまでいったのにノックオンをしてしまったことです。それは泣きそうになったくらいにくやしさでした。二つ目は、タックルができそうだったのに転んでしまったことです。

試合が終わったとき、皆が応援してくれたのにトライが出来なくて、すごくくやしかったです。でも試合はすごく楽しかったです。

うれしかったミルクィー大会

2年 熊谷 祥

トライができてよかった。ぜんしょうもできた。オーバーもできてよかった。あと、タックルがもっとできれば、点すうをもっととれたかも。

ミルクィー大会

2年 米元悠翔

僕は、もっと低くタックルできるように頑張りたいです

ミルクィー大会

2年 本田 昂大

もっと頑張れたと思う。次は、いつでも全力でぶつかって行く!

今年のミルクィー大会

2年生 齋川 夏央

1試合しかなかったけど4チームがみんな勝ってよかった。今年はトライできなかったけど今度はトライしたい。強気で「おもいきり」よく、がんばりたい。

ミルクィー大会でがんばったこと

2年 東野振一郎

ぼくは、ミルクィー大会でがんばったのは、タックルとオーバーです。もくひょうがまもれてよかったです。あいてといいしあいできてよかったです。しあいのとちゅうで、けが人が出たけど、あきらめないで、ぜん力でがんばりました。こんどのしあいもぜん力でがんばりたいです。

うれしかった

2年 太田 佳吾

ぼくは、しあいでもよくできたと思います。それは、前にはできなかった、まっすぐにつっこむことです。でも、ミルクィー大会で、できたのでとてもうれしかったです。また、トライも多くとれたし、もくひょうどおり4しあいぜんぶかてたので、それもうれしかったです。3年生のけん大会でも、ゆうしょうめざして、がんばりたいです。

ミルクィー大会たのしかった

2年 横尾 瑛

ミルクィー大会で試合がぜんしょうできてさいこうにうれしかったです。もっと体を大きくして、タックルされてもたおれないようにしたいです。

全勝できてよかった

2年 阿部凌大(あべりょうた)

オーバー・タックル・トライができて良かった

ミルキー大会感想

2年 津国千智

ミルキー大会でできたことは、トライを一本とれたことと全勝できたことです。できなかったことは、オーバーとタックルです。来年は県大会で全勝したいです。できなかったオーバーとタックルを注意してれんしゅうしていきたいです。

ミルキー大会を終えて

2年 野村雄亮

ぼくのもくひょうは、タックルされてもすぐにたおれないことでした。ミルキー大会ではあんまり出来なかったけど、少しは出来ました。来年はもっともっとガンバリます。

ミルキー大会

2年生 萬場康生の母 恵子

八景島での試合、全試合、みんなで勝ち取った勝利に感動しました！母は、涙腺ゆるんじやいました。歳ですね。がんばりました！

ミルキー大会

2年 山内 太郎の母 山内 江里子

コーチにはいつも素晴らしいご指導をしていただき感謝しております。太郎は、暑い夏を過ぎた頃から急に成長したように思います。今までは、ただ試合に出ているだけでしたが、最近はやっとチームの一員として戦えるようになってきました。試合を観戦していると、こちらの胸も熱くなり、麻生スクールの子供達に感動をもらっています。子供の一生懸命な姿に教えられることも多いです。そして・・・スポーツってやっぱりいいですね！！

実りの秋～子供たち全員に拍手！

2年生2代目主将(見習い)千秋武尊 の父

秋の交流試合、子供たちは皆、目覚しい成長ぶりを見せてくれました。これまでのような脚の速い子の独走の応酬ではなく、ラックから2次・3次攻撃と連携を意識した動きになり、守備も相手の突進に臆する事無く気迫で立ち向かっています！皆がレベルアップしている事にお父さん・お母さん達は驚きと同時に誇らしく感じました。思い返せば、うだるような暑さの中、子供たちは皆、頑張り続けました。それがこの実りの秋に繋がったのでしょうか。子供たち一人ひとりに「やれば出来る(出来た)」という成功体験で自信が芽生えたなら、これに勝るものはありません。コーチの皆様のご指導の賜物と感謝致します。特に2年生新体制時に導入の可否でひと悶着有った？4チーム制に踏み切られた野村チーフコーチのご英断にはあらためて御礼申し上げます。目論見どおりのチーム力底上げが図れた事で、新3年生7人制が今から非常に楽しみで期待は膨らむばかりです！

ミルキー大会を観戦して

2年 太田 佳吾の母 美和

「2年生、全チーム勝利おめでとう。よくがんばったね。」と子供たちに大きな声で言ってあげたいです。トライをきめようと仲間と前へ前へ進もうとカー杯戦う姿、悔しくてプレー中に涙を流す姿を見て、子供たちの一生懸命さに応援しながら胸が熱くなりました。少し前までは、自分たちが試合に出ていないチームの試合の時は、砂いじりやおしゃべりばかりしていたのに、今では仲間の応援をしっかりとできるようになりました。その姿は、麻生RSがどの対戦相手よりもすばらしかったです。子供たちの成長ぶりに、頼もしく、嬉

しく感じました。これからどんなラグビーを見せてくれるのか楽しみにしています。
コーチの皆さま、1年間、熱いご指導ありがとうございました。

1年生



2列目：齊藤（母）・京屋（母）・都留（母）・河瀬（母）・竹川（母）・村松（母）・原田コーチ・濱田コーチ（和）コーチ・宮澤コーチ・井上コーチ・濱田（正）コーチ・

1列目：齊藤ゆうなちゃん・いつき・まなみ・こうへい・たつき・きょうや・こうき・せいごう・こうたろう（河）・ゆうき・ひかる

欠席：こうたろう（神）・ぎんじ・たいよう・ようすけ

秋の交流大会を振り返って

1年チーフコーチ 原田泰一

今年の交流試合は例年ですと最も雨が少ないと思われる10月10日、11月23日という2日間に予定されていましたが残念ながら2日間とも天候不順で中止となってしまいました。しかしながら、11月14日に横浜金沢海の公園内なぎさグラウンドで交流試合が再設定され、2試合を行うことが出来ました。

当日の試合では夏休み明けの多摩戦では辛酸を舐めた子供達も、ここぞとばかり「走り」「ぶつかり」トライ・タックルを決めてくれました。結果としても海老名戦、横浜戦ともに勝利することができたことは大変うれしく思います。

完全な私見かもしれませんが、試合を通して強く思ったことは『応援』の大切さです。今年は日大稲城 G の照明等工事を背景に夏前からご父母の練習見学はめっきり少なくなり若干の寂しさを感じるとともに、親が見ていなくても大丈夫という子供達の成長を実感してまいりました。やはり、幼稚園とは違うな、そろそろ親離れかなと思っていたのですが、試合後にめいめいがお父さん・お母さんに「俺タックル決めたよ」「トライ獲った」と楽しそうに報告する姿を見て、やはり『親御さんの応援』は子供にとっての何よりの原動力なのだなど改めて思いました。

いずれは子供は親から離れていきます。麻生ラグビースクールでもコーチが自分の子供を担当できる学年は2年生までと定められています。幼児から少年へ変貌を遂げる子供達をこれからも可能な限り『三位一体』で応援していきましょう。よろしくお願ひします。

秋の公式戦を終えて

1年コーチ 京屋 宜正

今年の1年生は他学年に比べ人数が少なく、それが悩みの種でしたが、夏以降、新しく3名の子供たちが入校して人数が増えたため、練習のバリエーションも増えました。また、試合形式の練習も正規の人数でできるようになり、ラグビーをプレーすることの楽しさや相手とぶつかり合ってトライすること面白さを子供たちに伝えることができたと感じています。

練習の成果により(?)、今年のミルキー大会の試合結果は2勝0敗！(雨による順延・中止が2回あり、結局実施した試合は2試合のみでした。)初めての試合で初トライをあげた子もいて、来期につながる良い結果が残せました。

その一方で、キックオフから相手に触ることもできないままトライされることや、相手に簡単にパスをつなげられてトライされることも多々ありました。幼稚園の時と違い1対1のスクラムからのセットプレーや各ポジションが決められているため、タックル・パス・オーバー等の基本プレーの重要性が再認識できました。また、集中力をきらさずにボールに対してガムシャラに絡んでプレーすること、相手ボールおよびマイボールの時のポジショニングを理解すること等、足りない部分もいろいろあると思いました。

しかし、まだ1年生。これからもっともっと練習して、今のままラグビーを楽しみながら、怪我なく、仲良く、強いチームに成長しましょう！

交流大会を終えて

1年コーチ 井上正敏

今年は私が試合に欠席してしまい、子供たちの試合内容は見ることはできませんでした。しかし、良い試合をしてくれたことと思います。練習では、最近準備体操も並んでできるようになり、子供たちの成長を感じ、うれしく思います。最後になりますが、いつもご支援いただいております父兄の方々有難うございます。来年もよろしくお願いいいたします。

「試合に勝つ」

1年コーチ 野田 卓人

試合前のウォーミングアップでタックル練習をした時のこと。いつもはタックルダミーで受けていて、久しぶりに直に受けてみると、息が詰まるほどの鋭いあたり。一瞬たじろいでいると、次の子はトップスピードに乗っており、立てひざの体勢では倒れそうになった。

普段の練習で、上手に相手を止められるまで泣きながら、何度もタックル練習を繰り返した成果かなあと感心しつつ、実力を十二分に発揮できることを期待して、いざ試合へ。

練習ではなかなか思い切って相手に飛びつかなかった子も、試合では見事なタックルを連発。更には激しいタックルでこぼれたボールをすかさず拾ってトライへつながるシーンが何度もあった。

試合後には「勝てて嬉しい。でも、もっとうまくなりたい」と子どもたちからの声。成長途上の子どもたちだけに、これからは楽しみます。

しあい

1年 はぎわらたつき

どっちもかてて、うれしかったです。
トライデキテヨカッタデス。

「ラグビーがんばります！」

1年 さいとうゆうき

しあいでかつのがうれしいです。

またトライしたいです。

つぎのしあいのもくひょうは、1てんとられたらぶつつぶす！うおおお！

ほかのチームにはぜったいまけないです！

ラグビーがんばります！

試合の感想

1年・河瀬孔太郎

相手は強そうだったけど、皆で力をあわせた。僕はタックルも出来た。勝てて良かった。

感想

1年 都留光平

横浜との試合でトライできてうれしかったです。

感想

1年 都留茉奈実

初めて試合に出られてうれしかったです。

感想

1年 村松京弥

練習は楽しいです。
鎌倉と戦い勝ちたいです！

「試合を振り返って」

1年 竹川正剛

点が取れたのは良かったけどタックルが出来なかった。
低いタックルを決めたい。

感想

1年 京屋光琉

僕はトライが一つもできなかったのもっと練習を頑張って、試合でトライしたいです。

秋の交流大会

1年 原田太陽

このあいだラグビーですごくボールをもってトライやあいてをたおしたりして、すごくできてうれしかったです。

もっとつよくなりたいです。いつかすごくつよくなれるようにがんばります。

感想

1年 えびはらぎんじ

トライもタックルも頑張ってできてよかった。

感想

一年 神下弘太郎

最初の試合は、すぐにポジションに戻れなくて、負けてしまいました。次の時はすぐにポジションに戻ったので勝てました。良かったことは、タックルが思い切って出来たことです。来年は、早くポジションに戻ってボールの場所を探します。

試合を終えて

1年生 濱田 昂輝

えびなせんでは、ゴールがわからなくて、一本さきのせんがゴールだとおもって、ボールをそこまでもって行ってしまいました。

けれども、はつトライがとれたので、とてもうれしかったです。

にかいめのよこはませんでは、トライが二本とれたので、うれしかったです。つぎはこえがけをできるようにがんばりたいです。

しあいでたのしかったこと

1年 宮澤 樹

しあおでたのしかったことは、トライはできなかったけどタックルができたことです。

らいねんもがんばりたいです。

がんばりたいことは「トライ」です。

感想

1年 萩原起の母 信子

コーチの皆様、いつもご指導ありがとうございます。

オーバーやパスをまわすなど、チームプレイができるようになり、子供たちの成長に感動しました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

「母の思い」

1年 齋藤裕気の母

いつもお世話になりありがとうございます。

グラウンドを逃げ回って、練習に参加しようとしなかった裕気も1年生になりました。

先日の試合前日、「あしたはぜったいトライする!!!」と宣言をしたのですが、本番ではトライできず...。少し落ち込む裕気でした...

でも、でも、母の思いは、毎週の練習に参加し、試合では怖がっていたタックルにも挑戦して、一生懸命ボールを追いかけて、それだけでもう胸いっぱいです。裕気が一生懸命頑張っているだけで母の胸はいつも温かくなり、嬉しくなります。これからも裕気のペースで頑張ってくれたらと思っています。

コーチの皆様、1年生のお母様方、いつも裕気のことを温かく見守っていただき、本当にありがとうございます。まだまだご迷惑をおかけしてしまうと思いますがこれからもよろしくおねがいたします。

感想

1年生 都留(母)

入校して間もないのに、試合に出させていただきありがとうございました。

最初の試合があり、練習してまた試合と回を重ねるごとに皆の動きが良くなっていくのを間近に見て感動しました。

コーチの一人一人に対する温かい声かけに、親のほうに先にジーンとしています。

親としては、「ルールを覚える」が課題です。

感想

1年 村松京弥の母

ラグビーを通してたくましく成長して欲しいです。体重も4月から5kg 増えました!!この調子で頑張っていて欲しいです。

感想

1年 竹川正剛(母)

一年生になり、仲間も増えてきて
嬉しく思っています。
コーチの皆様には、いつも熱く指導下さり、この環境に感謝しています。
子供には、もっと強くなって欲しい。
期待しています！

幼稚園



3列目 齋川コーチ、河合コーチ、大原コーチ、菅田コーチ、キムコーチ、牧野コーチ
2列目 ゆうの、かえで、しょうじ、じゅん、こうせい、はるろう、こうしん、ゆうじろう
1列目 そうま、こうすけ、りょうま、ゆおん、りゅうく、まさき、りゅうへい

『頑張った！麻生の幼稚園！』

幼稚園コーチ 牧野 義之

春先までは、ラグビーというよりは、ボールを持つての追いかけっこ？という感じの子ども達でしたが、夏を境に大きく成長しました。走ること、強く当たること、相手に向かってタックルすることなど、なかなか上級学年でも出来ないことを練習や試合で見せてくれました。また、400m走でも、全員が自己目標をもって頑張って走っており、素晴らしいことだと思います。

この勢いで、年長さんは1年生へ、年少・年中さんはそれぞれ上の学年で頑張ってくれることと思います。これからも、元気な声でグラウンドを沸かしてくれることでしょう！！

頑張れ！麻生の幼稚園！

『トライ！！』

幼稚園 年中 のだ こうすけ

しあいっていっぱいトライができてうれしかった。タックルであいてをたおしたいです。

『ラグビー大好き！！』

幼稚園 年中 野田 航佑の母
夏にはラグビーをやめたいと言っていた航佑が、秋の試合ではたくさんトライを決めて活躍し、嬉しく思いました。この活躍をきっかけにラグビーの楽しさがわかったようで、これからも頑張ってもらいたいです。

『ミルクータイかい』

幼稚園 年中 おおはら りゅうく
トライをいっぱいとり！タックルをいっぱいする！

『ミルクータイかい』

幼稚園 年中 なかはら ゆおん
タックルするとあいてのせなかが、むねにぶつかっていたかったけど、がまんしてタックルした。いっぱいトライをきめたかったから、がまんしてタックルした。みんなにパスしたいけど、じぶんがトライしたいから、トライしにいってしまう。ボールとりと、すもうなどのグラウンドでのれんしゅうがたのしい。らいねんもいっぱいタックルとトライをきめたい。

『ミルクータイかい』

幼稚園 年長 おとち ゆうじろう
タックルやトライができてよかった。なかまからパスをもらってトライしたのがいちばんうれしかった。もっとパスをうまくなって、きょうりょくしてきめるトライを10かいくらいしたい！

『ミルクータイかい』

幼稚園 年長 乙地 優二郎の母
ミルクータイかい試合で、トライを決めたチームメイトの肩を叩いて喜びの声を掛けていたのを観て、すごく成長を感じました。まだまだ幼稚園児、と思いますが、1年間でチームのみんなとの信頼関係を築きつつあるんだなあと感じました。これからも競いあい、協力し合い、頑張ってもらいたいです。

『ミルクータイかい』

幼稚園 年長 くすもと じゅん
ことは、うまいかないこともあったけど、らいねんはもっとがんばって、うまくできるようになる。タックルもがんばる。

『ミルクータイかい』

幼稚園 年長 ころす かえで
しあいでカエがタックルしたらあいてがボールをまえにおとしたのがうれしかった。400メートルもはやくなったし～。しあいではよいひととか、おおきいひとタックルでとめたい。

『ミルクータイかい』

幼稚園 年長 黒須 楓の母
年長になって昨年とは違う迫力ある試合にいつも驚かされています。なかなか試合ではトライが取れない楓ですが、トライが取りたいボールを触りたい気持ちがありながらも、仲間のトライを助けるためのタックルの必要性も分かってきたようです。子供たちそれぞれが得意な面を活かして頑張る姿を観ていると本当に「仲間」で戦えるようになったんだなと嬉しく思います。これからも成長した子供たちの試合を楽しみにしています

『ミルクーたいかい』

幼稚園 年長 さいかわ はるろう

しあいトライした。タックルもした。そしてかった！
トライできなかった。タックルもうまくできなかった。そしたらまけた！
まけたらうれしいから、らいねんはぜんぶかちたい。

『がんばること』

幼稚園 年長 うづき かいと

400メートルそうで1いになる！

『ミルクーたいかい』

幼稚園 年長 ひじかた しょうじ

しあいトライをたくさんきめたかった。タックルをきめたときはすごくうれしかった。ジャンケンたいかいがたのしかった

『ミルクーたいかい』

幼稚園 年長 土方 将嗣の母

ラグビーを始めて約半年、少しづつ楽しんで練習に参加しています。体が小さく消極的などころがある息子、ラグビーを続けて行くことで、自信を持たらよいなと思っています。また、仲間とスポーツをする楽しさを感じてもらえたら嬉しいなと思っています。

『今後の抱負』

幼稚園 年中 かわい まさき

もっとトライをきめたい。
タックルがんばる。

『初めてのミルクー大会』

幼稚園 河合 真輝 父

今年2月から麻生ラグビースクールにお世話になり、初めてのミルクー大会を迎えました。
親の都合以外は嫌がりもせず練習に参加した真輝、11月7日に行われた大和キンダーカップでの対横浜B戦でのトライは、練習を続けてきた結果の一つだと思います。これから何十本、(何百本)決めてくれるだろうトライの最初の一本として、しっかりと目に焼きつけてもらいました。真輝もこれからラグビーを続けていく自信になったかと思います。
まだまだ元気さが足りませんので、来年は次男の遼真も入校予定なので、2人とも大きな声を出して元気なプレーができるように、親子共々頑張っていけたらと思います。

幼稚園 年少々 久保 瑛史の母

現在小学校三年の長男が麻生ラグビーに入会させて頂いた年に次男も入れたいと思い、入会致しました。長男の時はコーチ達の温かい指導に感動し、感謝の念で一杯でした。
今年の春に、久しぶりの麻生ラグビーでしたので、少しドキドキしながら、次男を連れて行きました。次男は、まだ年少々で手が掛かるにも関わらず、コーチ達に温かく迎えて頂き、あっという間に溶け込んでいきました。
そして、コーチ達に見守られ、彼なりに精いっぱい参加している姿を見て、長男の時と同様に、感謝の念で一杯になりました。
コーチやチームメイトと共に、ここ麻生ラグビーで成長して欲しいと思っています

『ミルクーたいかい』

幼稚園 年長 すげた こうしん

トライをとりたかったけど、とれなくてざんねんだった。うれしいことはタックルをしてあいてをタッチにだせたのがうれしかった。こんどしあいをするときはぜったいかちたい。

『夢は大きく!』

幼稚園 年長 菅田 光真の母

昨年麻生RSにお世話になり、最初は逆方向に走ったり、試合中にジャンケンをしたりしていましたが、母子ともども少しづつルールを覚えてきました。今や「大きくなったらジャパンに入りたい!」とか「ニュージーランドに入りたい!」などと言うようになりました。ラグビーが楽しいようです。これもひとえにチームメイトからの刺激やコーチのご指導のおかげと感謝しております。今後とも宜しくお願いいたします。

新コーチ紹介



一年コーチ 濱田 和弘

11月より、一年生の濱田 昂輝と共に麻生RSに入校しました 濱田 和弘です。この度コーチに就任させていただくことになり、緊張、期待、夢、希望、様々な気持ちとともに毎週の練習に参加しております。

大学卒業後、ラグビーに触れる機会が少なくなり、ここ最近では、一年に何回か試合をテレビ観戦する程度になっておりましたが、夏休み後、娘の小学校のママ友経由で麻生RSの活動を紹介していただき、「ああ、ラグビーまたやれたらいいな」、「子どもにもラグビーの楽しさを見せてあげたいな」と漠然と思いつき、子どもと一緒に体験見学をさせていただきました。

息子とともに走ったり、ボールを追いかけているうちに、すっかり夢中になり、仲間とともにグラウンドを走り回っていた記憶が蘇ってくるのと同時に、練習が終わるころには、是非またもう一度ラグビーやりたいな、と思うようになっていました。また、コーチという事で、自分自身でやっていた頃とは見方も考え方も違って見え、新鮮な気持ちになりました。

技術的なサポートも然ることながら、子どもたちにはラグビーの持つチームプレーの大切さ、強靱な精神力、紳士的なスポーツマンシップといった精神的な面でのサポートもしてあげたいと考えております。言い古され、使い古された言葉ではありますが、「One for all, All for one」、お子さん達、コーチ、ご父兄の方とともに、麻生RSを盛り上げてゆきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



幼稚園コーチ 菱田 元

本年(2010年)9月に3年間のチリ赴任から帰国し、11月より幼稚園コーチを始めました。長男が2002年4月から2008年3月の6年間お世話になり、また、昨年(2009年)3月に卒業した重住チーフコーチの学年が、幼稚園だった2003年4月から5年生途中の2007年7月までの5年4か月の間、コーチを務めさせていただきました。

南米はサッカー主流でラグビーの話題は少ないですが、2007年W杯(フランス大会)第4位のアルゼンチンは小学校で体育の時間にラグビーを取り入れており、隣国チリでもスペイン語のラグビーTV番組は毎週放映されていました。

「次代を背負う若者づくり」のお手伝いとして、心機一転頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

魂よ永遠に ～ 松田コーチを偲んで ～

1年チーフコーチ 原田泰一

県大会の始まりを目前に控えた8月25日、1年間にわたる闘病の末に松田コーチが永眠されました。この紙面を借りて、謹んで哀悼の意を表します。

現1年生が幼稚園のときから麻生ラグビースクールのため一生懸命に尽力された姿は今でも昨日のこのように思い出されます。特に、挨拶の大切さを教えてくださったことや練習に気乗りしない幼児達への目配り気配りなど、麻生のコーチは「こうあるべき」という理想像を体現されていた方であったと強く感じます。

2年生を目前にした子供達、みんなが練習の始めに元気良く挨拶が出来るようになりました。そんな時、今でも大きな声で『松田修一です、よろしくお願ひします』と挨拶する松田コーチが隣にいるのではないかと錯覚することがあります。そんな時こう思うのです、確実に皆の心のなかに松田コーチの魂が生き続けていると、そしてこれからも永遠に。

編集後記

麻生RSIは今年の県大会も非常によくがんばった。そして生徒、父母、コーチ達は県大会に向けての練習の中で、また本番の試合の中で計り知れない貴重な体験をしたことが、よく文章に表れています。来年はさらに一段上を目指そう。(編集長 毛利)

昨年の川崎戦の悔しさをバネに頑張ってきたこの一年間、見事リベンジを果たせました。本当に良いものを見せてもらったと感謝しております。(6年 伊藤)

今年は、インフルエンザ等も無く、無事に大会が終了したことは、喜ばしいことと思います。5年生は、自信に溢れる内容となり、ますます期待したいです。(5年 木下)

今回もたくさんの子供たちの感想を読むことができました。みんなにとって良い思い出になると良いと思います。(4年 宇田)

県大会に向けた期待や興奮は、秋の訪れとともに幕を閉じました。子供たちが繰り広げてくれた感動のシーンを、少しだけでも伝えることができたら幸いです。新しい年に向けて、うさぎ跳びジャンプで、全勝優勝を目指してがんばりましょう！！(3年 曾我)

あっ！という間に1年がたちました。子供達もあっ！と成長していきます。来年もとっても楽しみです！(2年 亀田)

1年生は2試合のみでしたが子供たちの成長を感じられました。また、来年が楽しみです！(1年 濱田)
子供たちの成長を実感できた一年でした。ありがとうございました。(幼稚園 菅田)

子供たちの原稿から悔しかったことが伝わってきます。悔しさを来年の県大会で晴らしてほしいと思いました(宮澤)

麻生リトルラグーマン NO. 86

発行日／平成22年12月26日

発行者／三浦 幸宏(042-331-6548)

編集長／毛利昌康(044-953-8107) e-mail アドレス: masayasu@delight-net.com

副編集長／小松正巳

編集委員／小坂頼史・伊藤信一・木下義之・宇田洗希・曾我浩・亀田直幹・濱田正行・菅田光平・宮澤秀毅

表紙題字:元全日本監督 日比野弘氏 ホームページ <http://asaors.com/>